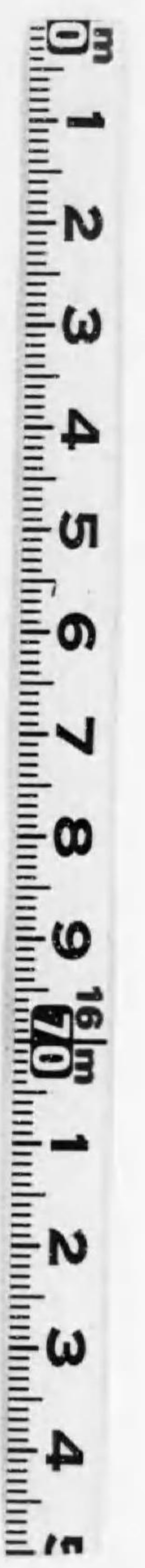


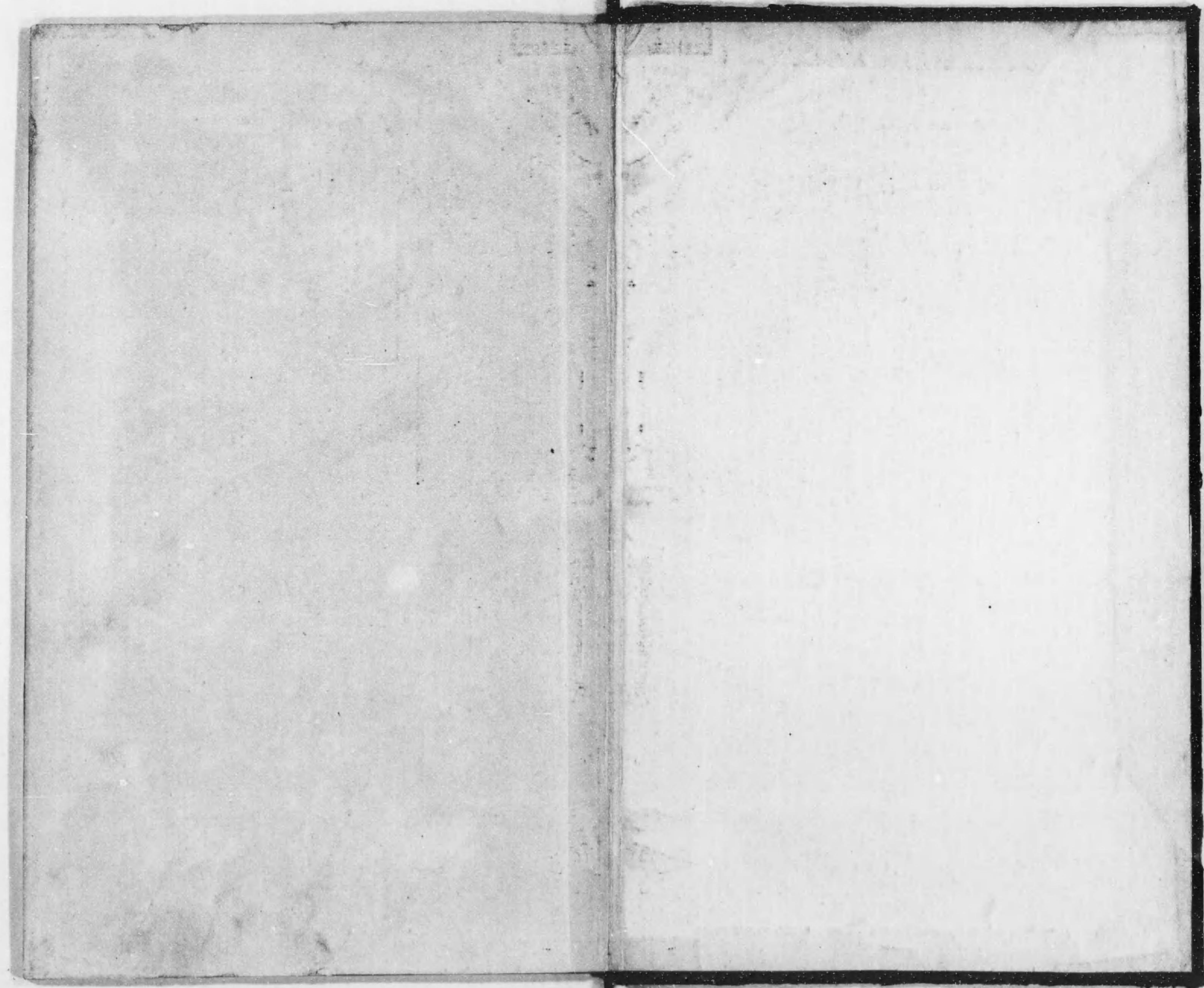
524

佛領印度支那事情



始





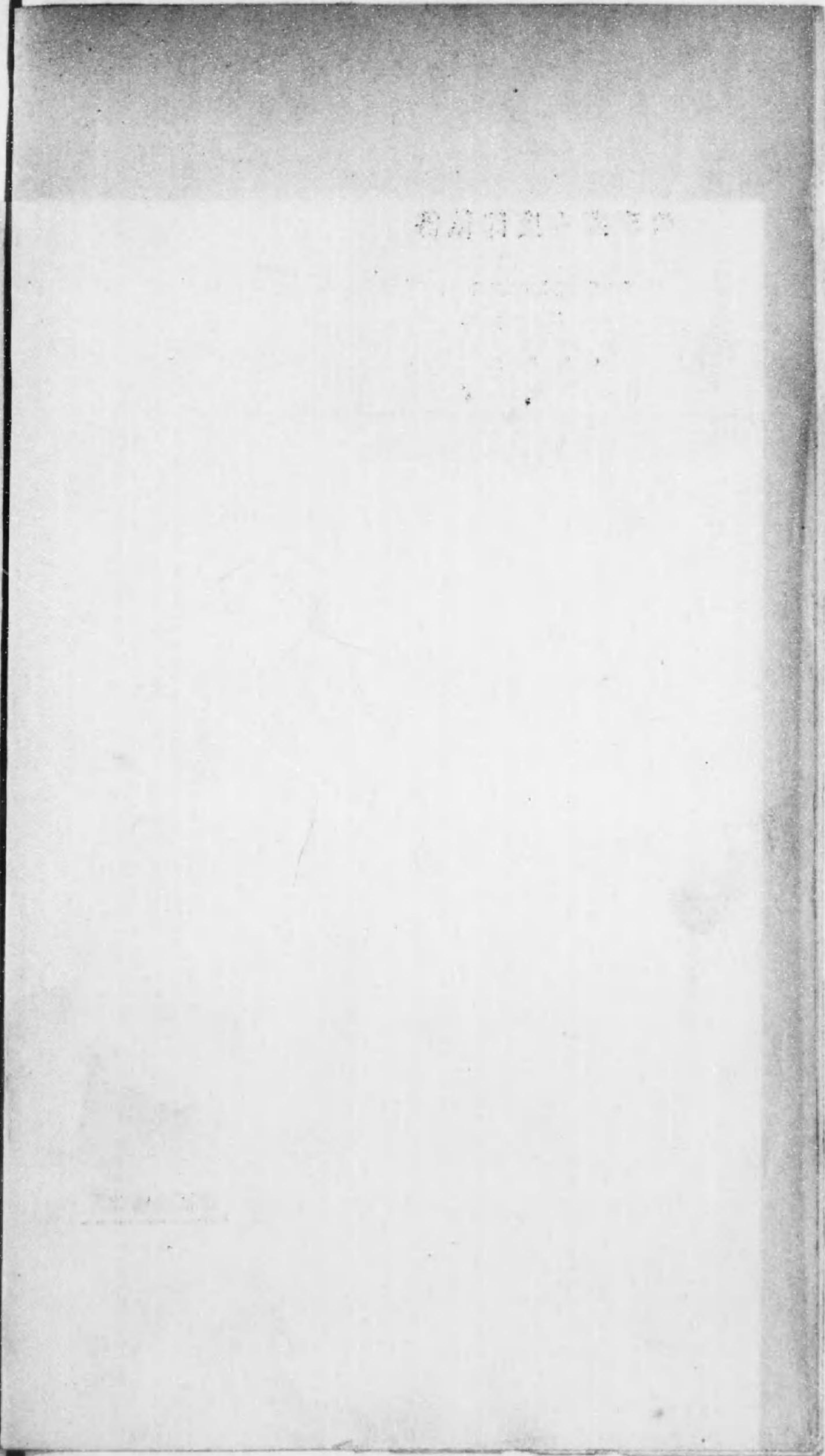
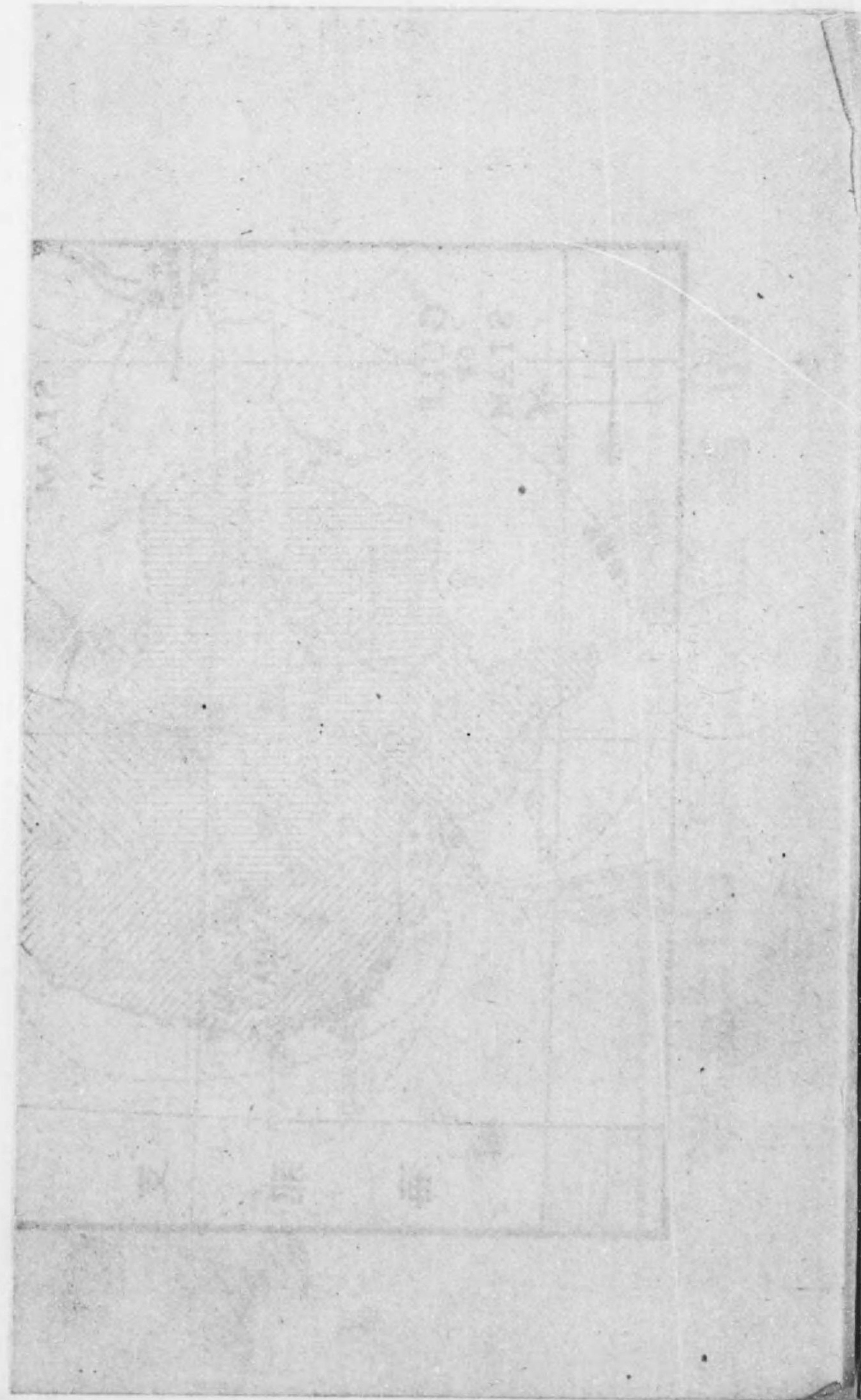
524
330

佛 贖 印 度 支 那 事 情

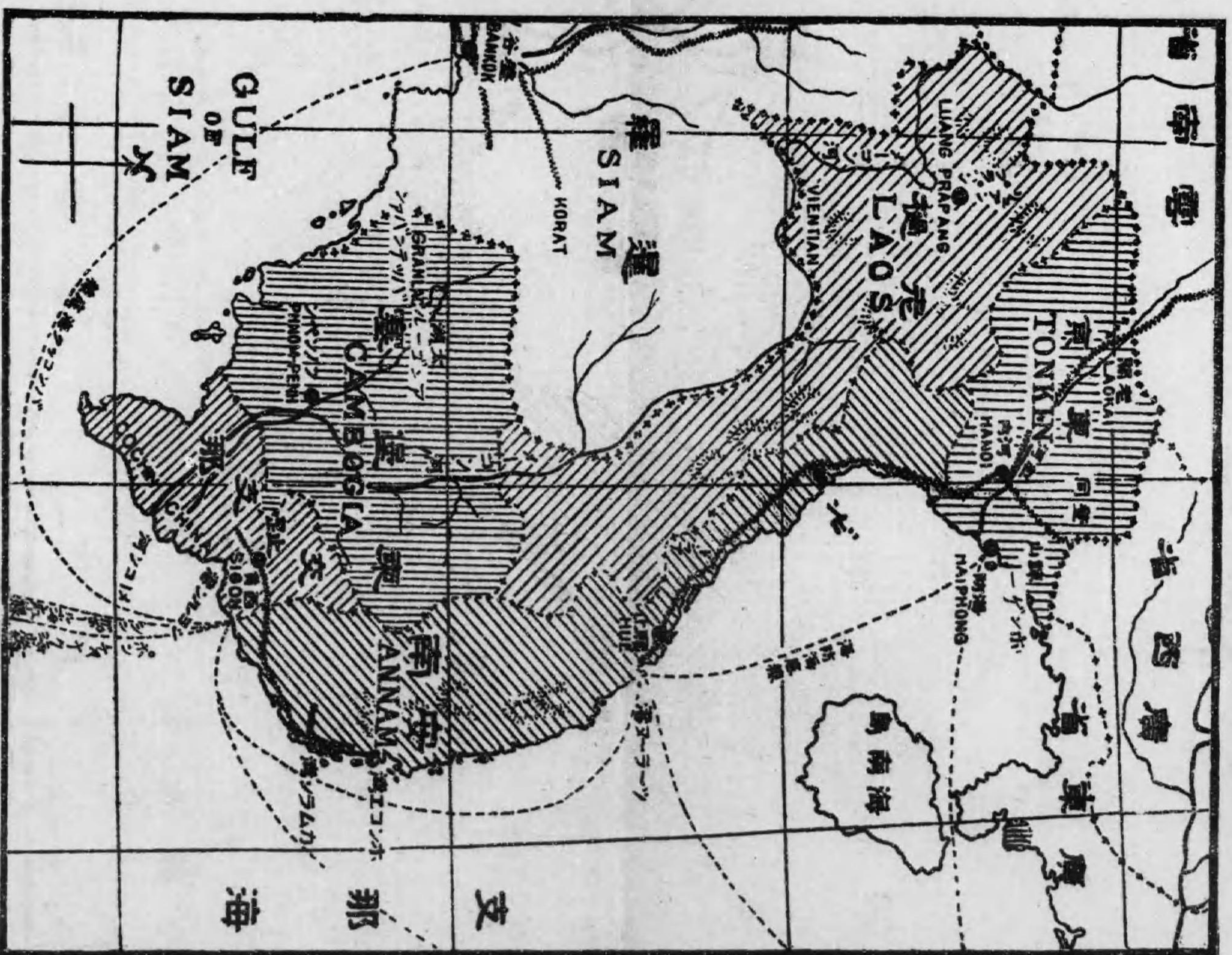
印 度 支 那 協 會 常 務 理 事
松 木 幹 一 郎
工 學 博 士
岡 野 昇

工 政 會 出 版 部

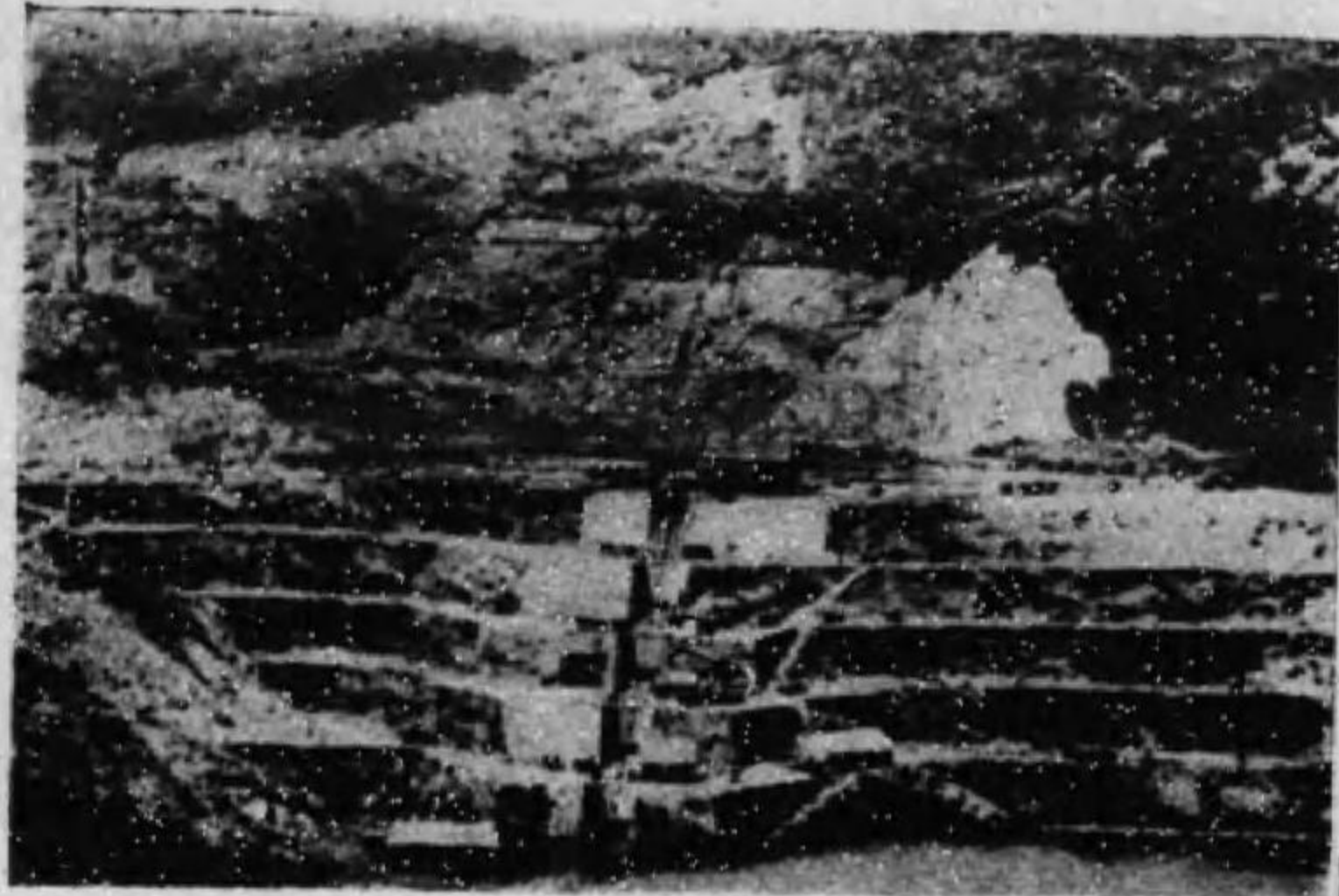
1925



佛領印度支那圖



【一】 佛領印度支那事情



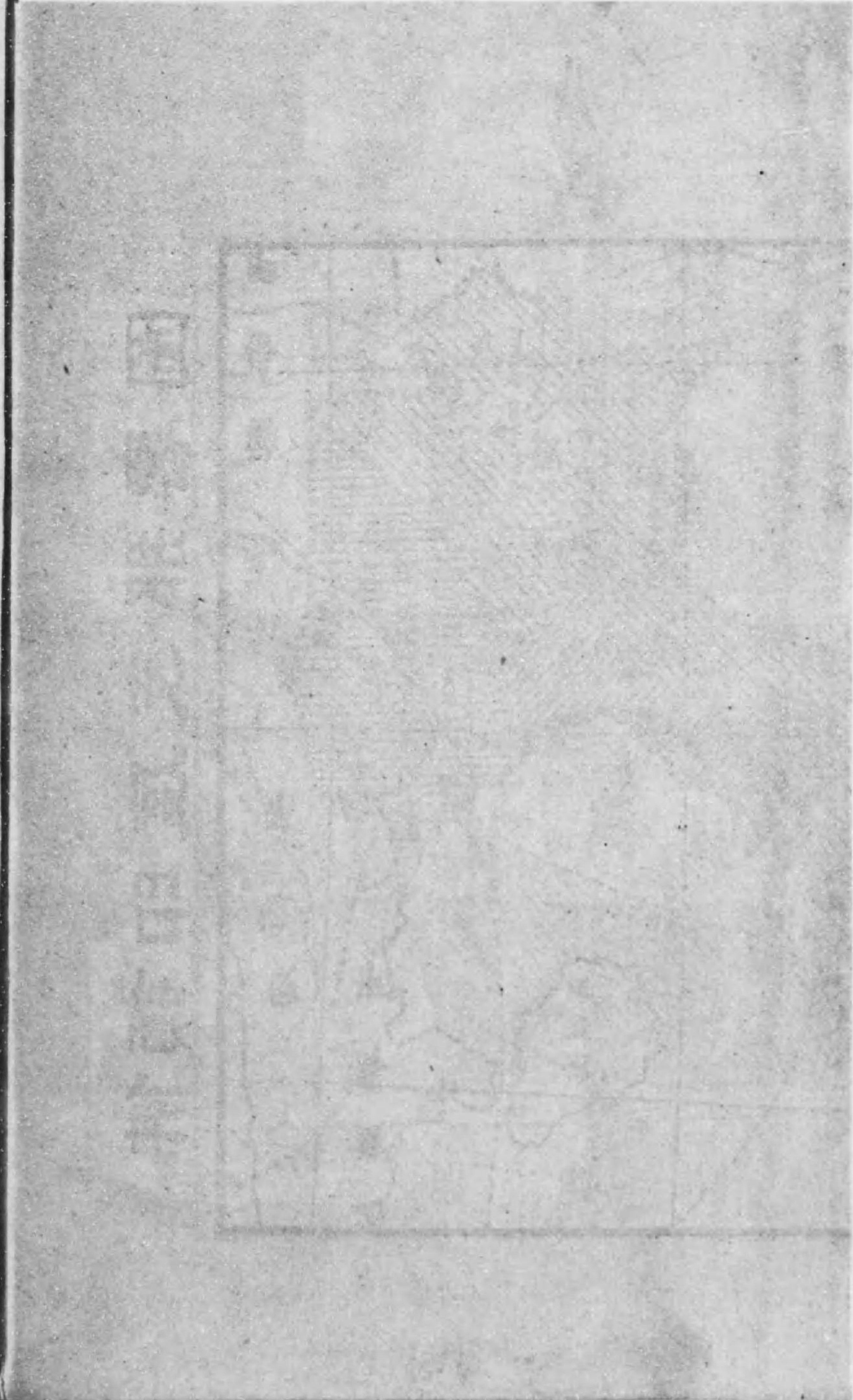
東京
ホンゲイ炭田
露天堀

同
上



東京地方農場

東京アロイン湖奇勝



【二】 情事那支度印領佛



カンボヂヤ
フノンペン、塔の入口



交趾支那サイゴン
土人婦女子の食事



カンボヂヤ
フノンペン公園

從來わが國の對外關係は餘りに歐米諸國に重きを置きすぎ、却つて近隣に位置する東南洋各地方に疎なる傾きを免れなかつた。最近中華民國、シベリア等に就ては、種々の事情から餘程關係緊密を加うるに至つたが、フィリツピン、印度支那及びそれより西、南の各地方に對しては依然として雲煙過眼視されてゐる状態である。之はわが對外政策上の一大缺點と云はねばならぬ。印度支那協會は斯くの如き寒氣内にあつて、數年來孜孜として、佛領印度支那の調査に従はれ、同地方と我が邦との經濟關係の増進に努められた。其効果は日を経て著しく現はれ、かのメルラン印度支那總督の昨年來朝せる時、亦同協會が策地を作つておいた結果に外ならないと云はれてゐる。

茲に於て同協會は此の好機を善用するために屢々政府を説き、遂に本年二月山縣伊三郎公を正使とせる答禮使節一行の同地方訪問となり、クロードル駐日佛國大使亦賜暇歸國の途行を共にし、同時に印度支那協會は松木常務理事を始め、理事及び囑託専門家よりなる十數名、或は山縣使節と行を共にし、或は獨立して同地方に關する各般の調査を遂げ、臨時日地理的存在としてのみ、極めて漠然と認識してゐた。之は甚だ相濟まぬ譯ではあるが、大多數の邦人にとつては價値のない事實でないかと思ふ。然るに這次印度支那協會の活躍努力は吾々をして多年の怠慢より反省せしめ、近隣に位置する政治、經濟上重要な意義を有する印度支那の真相を會得了解せしむるに足るものがあつたのである。而して一度印度支那に注意を喚起されると共に、吾々の眼は更にその附近及び尙ほ遙か西、南に横はる廣大なる諸地方に就ても、亦大に考えさせられるに至つたのである。之はわが邦の對外關係が更始一新を必要とするの時に當り、甚だ輕視すべからざる現象と云はねばならぬ。本冊子收むる所の松木氏の講演は同地方の概況、殊にその經濟的價値に就て、短かいうちに甚だよく要領を得てゐるのであつて、之を岡野氏の談片と併せ讀むに於ては、大略同地方の現状を知るを得べく、若しそれ此の冊子が手引となつて、世上同地方に對し經濟的、產業的に注目する者あるに至らば、本會の望みは足るものである。追つて同協會は今回視察の結果に付、各専門家の報告を纏めて發表されると云ふ事である。どうか東、南洋諸問題に志ある人士が必ず就いて一讀せられ、印度支那協會に協力して同地方との經濟的關係の増進に努め、わが對外關係の更新展開に貢獻せられん事を切望する次第である。(倉橋生)

14. 8. 1
内交

ポール・クローデル大使の言葉

此の冊子の出来上つた時、パリのマタン紙主筆ローザンヌ氏は、わが邦駐紮佛國大使ポール・クローデル氏をパリに訪ふた時の話を東京日々に寄せた。

大使は「私は兩國が日毎に接近しつゝあるのを見る。日本は何時もフランスを理解しフランスを愛してゐる吾々も亦、極東における世界文明の大きな保障である。日本を理解し、愛して来たと信じてゐる」と冒頭し、更に佛領印度支那と日本の關係について「インド支那のある方面では昨年までまだ日本との間に多少の行違があつたやうだが、この間私がサイゴンまで同行した日本の使節山縣公のインド支那訪問は、この點で餘程功を収めた。使節一行の謙讓な態度と應接の巧妙なお庇で種々の偏見が除去された。インド支那總督メルラン氏とパリに歸還すれば、日佛通商の商議はまたパリで續けられるであらうが、私は極く近々の中に兩國がきつとお互ひに満足する協定を結び得るであらうと信ずる……今日では條約の前文を書くのは國民自身であつて、その後において初めて政府調印の段取りとなるといふことである。國際間の友好關係を一枚の紙の上に形式化する前に、國民は之を豫感するに相違ない。それが丁度今日日佛間に起つてゐる状態だ。兩國民はお互に誠實で何等粉飾せず不斷に増してゆく友情を感じてゐる。そしてお互に相手が必要としてゐる時である。極東に大きな利害關係をもつてゐるフランスは、日本ほど忠實な友邦、また日本ほど利害を度外視した相談相手を見出すことが出来ない。また歐洲が何を欲求し何を考へてゐるかを知ることが必要とする日本にとつて、フランスより健全な支持者、フランスより公平無私な情報を提供する國をもつことは出来ない。これ等のことはいつかもつと的確に決定される日が来るであらう」云々と語つてゐる。

吾々は大使の此の言葉を、印度支那協會の努力に對し、吾々の拙ない言葉の代りにデヂケイトし其隆盛を祈るものである。

目次

佛領印度支那事情

松木幹一郎

訪問の目的……………	一
海防港……………	二
河内……………	三
米……………	三
海防セメント……………	三
鴻基炭田……………	四
亞鉛と漆……………	四
ビン(鐵道、國道)……………	五
ユエ(順化府)……………	六
王宮と帝陵……………	六
ツラヌ(横山關、海雲關)……………	七
ファイホ(日本人遺跡)……………	八
サイゴン……………	九
メーコン河流域の米作……………	一〇
シヨルン(米輸出港)……………	一一
無線電信所、飛行場、要塞……………	一一
フノンベン……………	一二
アンコール遺跡……………	一二
アンコール踊……………	一三
アンコール所見……………	一四

ベンガローと道路	一七
太 湖	一七
メーコン河及び紅河	一八
鐵 道	一八
印度支那の産業	二〇
輸出入貿易	二〇
對日本經濟狀態	二一
水牛、犬、役人	二二
對日感情の好轉	二三
農商工會	二六
人情、風俗	二七
移民問題	二八
財政、軍備	二九
道 路	二九
通 信	三〇
誤解の掃	三〇
印度支那視察談片	
岡 野 昇	
國 情	三一
道 路	三一
鐵 道	三一
港 灣	三二
結	三六

佛領印度支那事情

印度支那協會常務理事 松 木 幹 一 郎



訪問の目的 先般御會の倉橋理事より御話がありました次第により、佛領印度支那に關して紙上講演を一席申述べました。私は先頃山縣使節の一行と共に印度支那に參つて、三月の中旬に歸つて參りました。全體此印度支那へ今度私共の參りました意味は昨年フランス大使タローデル氏の御盡力でメルラン總督を我協會の賓客として來て貰ひました、その答禮をする爲めに協會が行かなければならぬと云ふことは、昨年の暮に決つて居りました。それが色々の事情で延びて今年出掛けました。フランス大使は我々の協會の名譽會長であります。此度賜暇歸國の途次我々の協會を率いて行かれた。丁度同時に政府の方でも答禮使を出さなければならぬと言ふ御相談がありました。山縣使節が御出でになることになりました。それで一月の二十一日に東京を立ちまして、二月の三日に海防に着きました。其後の行程は多少使節の一行とは變りません。二月二十七日の船で一緒に柴根を立ちまして、私共は三月の中程に歸りました。山縣使節は臺灣へ廻られて二十一日にお歸りになつたのであります。往復さつと五十二日、其間で丁度半分が印度支那の土地へ着くまで、若くはそれを出發して歸國しまする迄の行程であります。他の半分が印度支那の内地に滞在し若くは旅行しました日程であります。随つて一ヶ月に満たない僅かな期間であります上に、其旅行しました場所は非常な廣い所でありまして、餘

り詳しい調査などは無論出来ませぬ。印度支那協會では参ります時分に専門家を若干帯同致しまして、衛生施設並に熱帯病の研究に關しては傳染病研究所の佐藤醫學士を其方面に囑託致しました。それから農業其他の關係では宇都宮高等農林學校の教授の木村農學士を囑託致しました。東洋の文化及び歴史地理さう云ふものに就ては早稻田大學の教授五來欣造君を囑託し、鐵道交通道路と云ふやうなものにつきましては前鐵道次官の岡野昇博士を囑託致しました。之等の四君によつて先づ主なるものは調査致しました。随つてその途の關係者に接觸致しまして必要な材料等は集めて貰ひ、之等を四君から専門的立場に就て詳しい調査の結果を協會に向つて報告せらるゝ筈でありますから、遠からぬ内に之を印刷致しまして廣く世間へ御覽に入れる積りで居ります。私共は唯十八人の一行の宰領と申しますか世話役と云ふやうな關係で参つたのであります。殊に自分はさう云ふ専門の知識も持ちませぬので、ほんの見聞の儘だけしか申上げられまいと思ひます。併しそれも或は御一興であらうかと存じまして、なるべく難かしい議論などは避け、見聞しましたありの儘を順序を逐ふて申上げることにしたと思ひます。唯私共の協會と致しましては、佛領印度支那に就ては從來も既に若干の調査もなし又聊か考へて居りますこともありましたために、少しは印度支那の經濟關係と日本の經濟關係との間にかくもありたいと云ふやうな希望等は持つて居りますから、それ等の點を終りの時分に二、三御話申上げるかも知れませぬ。

海防港 それで先づ道中記と云ふやうなものを豫め申上げたいと思ひます。日本を立ちまして上海、香港を経て、三月の二日に海南島の傍を通つたのであります。海防の港に着きましたのが、二月三日の午前でございます。彼の邊り紅河即ち支那の奥の方から流れ出る河がございますが、其河のデルタで出来上つた所でございますから、海岸は頗る傾斜が緩いのでございます。さうして其海岸の潮の際迄小さな木が密生して居ります。それへ段々土が流れて來ると其木が土をしめていつて陸地になる。印度支那と云ふ國は丁度紅河と大きなメーコン河と兩方でデルタを作つて段々擴がつて行く

所でございますが、或は將來は東京灣トウキョウなどもう少し狭くなつて、さうして印度支那と云ふ國はもう少し大きくなるやうな感じが致すのであります。初め船が着きますのは所謂紅河の入口の港であります。河を若干廻つて其港に着くのでございますが、街の状態は大低い壁で赤い瓦の家根、如何にも南國の氣分を現して居りますが、其實餘り此邊は暑くはないのでございます。此處は工業も盛んであり又東京方面の大集散地でありまして、後に申上げます南方柴棍の港、これが南印度支那の一大集散地になつて居るのでございます。

河内 其海防の街から汽車で約三時間程走りますと河内即ち此東京の首府に到着するのであります。此間の鐵道は印度支那は皆同じでメートルゲージ即ち一メートルの線路の幅でありまして、餘り大した鐵道ではございませぬ。さうして單線でございます。

米 歓迎の様態などは特に詳しくは申上げませぬが、一口に申せば少し意外に思つた位歓迎をされました。此處に山縣使節は十一日迄、私共は十五日迄逗留致しまして此東京平野に關する各方面の調査や視察を致しました。此海防から河内に行きます間には鐵道の兩側には水田がありまして、丁度苗代から稻を移す時分でありまして、それを見ますと云ふと日本の田舎の田の植え方或は區切り方など、ちつとも違はないのであります。唯其田の中に安南の土人が立つて居り、其處に日本の牛の代りに水牛が居ると云ふ位が違ふのであります。如何にもよく似て居ります。さうして所謂東京平野でありますから、展望が甚だ廣い、成程良い國だと思はしめるやうな所でございます。此處は主たる産物は米でありまして、氣候の關係で普通二作、場所に依りますと三作取れるのであります。但し一反歩に對する收穫は日本のザツト半分位であります。それに肥料をちつとも使ひませぬ。此處は紅河から流れて來ます河水に土壤と微生物を持つて居りまして、それが矢張り肥料になります。つまり自然の肥料に依つて、特に人工的の肥料を用ひないのであります。即ち集約的には

耕作がされて居ない。それで此處は随分人口がありますが、それが需要した餘りの米凡そ百二十萬石見當が毎年輸出されることになつて居ります。一方柴棍方面から七百萬石合せて八、九百萬石が佛領印度支那全體より毎年輸出されることになるのであります。

四

海防セメント 海防の港は今申上げた通り商工業の中心になつて居りますが、此處に大きなセメント會社がありません。此港から遠からぬ處に印度支那の三景とか二景とか云つて非常に評判になつて居りますアロン灣と云ふのがあります。其處は廣さ百方哩と云ふのでありますから先づ十哩四方位の所で、丁度日本の松島をもつと擴げたやうな展望の所です。奇岩怪石をでも形容すべき種々な格好の島が無數に點在して居るのでございます。それは何で出来て居るか云ふと皆石灰岩であります。これは崩せばセメントの原料になる、それを原料とするセメント會社が出来て居りますが、大變有望な會社と云ふことであります。此島には餘り樹木はありませんが、石灰石でありますから長い間の風雨に曝されて種々な格好になつて居りまして、實に名状す可らざる絶景であります。其間を通つて北の方に参りますとホンゲイ港、其の奥に有名なホンゲイ炭田のある所に到着するのであります。日は前後致しますがそれは略しましてホンゲイ炭田のお話を致します。

鴻基炭田 ホンゲイ炭田はずつと昔フランス人が此處に参つた時分に、どう云ふ風にして調べたか知りませぬが、安南王から方六里の土地を貰つて、それで本國政府の援助を得て礦業を営むことになつたのであります。其ホンゲイ炭田と云ふのは炭層の厚さが二百五十尺位あります。さうしてそれは無煙炭でありまして、實に綺麗な炭であります。又其炭が所謂露天掘りで、上の方の土を少し除けますとすつかり下が眞黒な炭である。それで石段のやうに段を付けまして順々に掘つて居るのであります。唯膏空の下で鶴嘴を振つて碎いてシャベルで掬つてさうしてトロツコに乗せさへすれば、直

ぐ其炭が港迄行くやうになつて居るのでありますから、一噸當りの運費は極めて廉いのであります。さう云ふ良い富源を持つて居るのであります。それがホンゲイの炭田のみならず、ケバオを始め其附近一帯がすつとさう云ふ大きい炭田でありまして、皆無煙炭であります。最近に東京で有煙炭を發見しまして、それも相當の産額が出るやうになりました。今のホンゲイの附近の無煙炭は現在の生産、年にザツト百萬噸、來年若くは來々年には百二十萬噸出ることになつて居ると總支配人が申して居りましたが、それ等の産出の増加と共に、今のホンゲイの港が少し不便になりまして、其先のカンファと云ふ所に築港をやつて居りますが、規模甚だ大きい譯ではありませぬけれども、其處の炭を運搬するには充分な船掛りがあることになつて居ります。此處も極めて形勝の地であります。此無煙炭は從來九州の炭を持つて行きました、無煙炭七割、有煙炭三割見當で混ぜますと立派な煉炭が出来るのであります。フランスの東洋艦隊などは其煉炭を使つて居ります。所が近頃東京にさう云ふ有煙炭を見付けたため九州の炭が行くことが少くなつたと云ふことであります。

亞鉛と漆 尙此邊は礦物の非常に多い所であります。錫、金、銀、種々な物がありますが、一番有名なのは亞鉛であります。亞鉛は歐洲大戰中此處に非常に良い鑛石がありますので盛んに輸出されたものであります。今でも尙大分入つて居ります。最近日本の鑛業家が此處を約束致しまして亞鉛鑛石が日本に参るやうになつたさうであります。河内の附近には漆の耕作地がありまして、フランス人は相當に努力を拂つて開發致して居ります。併し乍ら後でも申上げますけれども、フランス人は大體は拓殖に餘り適して居ない、極めて努力的の人もありますが、大體はさう云ふことに適して居りませぬ。それで未だ此方面に於ては如何程も開發されて居ないのであります。漆は例の東京漆と言つて有名であるが、未ださう驚く程の額になつて居りませぬ。唯支那漆の補充として價額が廉いさうでありますから、日本には大分参つて居ります。將來日本人が此處で仕事をやれば漆、コイヒイなどは米に次いで良い仕事であらうと云ふことでございます。

五

ビン(鐵道、國道) 私共は十五日に印度支那の東京^{トシヤン}の用を済ませまして、すつと安南への旅に参つたのでございます。此處にもメートルゲージの鐵道がありまして、夜の六時に立ちますと翌朝早くビンと申す處に着くやうになつて居ります。其先は自動車道でありまして、大變に良く出来て居ります。これは北部支那の境老開と申すところから柴棍、柴棍からカンプヂヤの首府フノンベンを経てバツテンバアンと云ふ所があります。其方に向つて第一種の國道が通じて居ります。其總延長一、五九七哩であります。巴里モスコウ間より少し遠い位であります。此國道は場所によつて多少構造が違ひますけれども、自動車の交通に頗る都合が好く出来て居る道であります。大體の規格は道幅十九呎八吋であります。大低五、六十哩位の速力は平氣で出せます。さうして少しも車に動搖がなく、極めて愉快な旅行が出来るのであります。その橋は殆んど鐵筋コンクリートでありまして大抵十噸乃至十二噸位の重さ、例へば小さなタンクカーでも大丈夫通るやうな道になつて居ります。

ユエ(順化府) 私共は十六日の朝ビンと云ふ縣廳の所在地迄鐵道で参りまして、それから自動車で安南の首府ユエ(順化)に向ひました。ユエの手前よりは鐵道がありますが、此汽車を使ひませぬで、自動車で順化府即ち安南の昔の都今皇帝の居らるゝ所迄参りました。此沿道は圖面で見ますと狭い帯のやうな所でありまして、大體印度支那はカムボヂヤの平原及び東京の平野と云ふものを荷物の兩端と譬へれば其間の細長き地帯が擔つて居る棒のやうなものだと云ふことを本に書いてありますが、地圖で見ましても歩いて見ましても先づ大體帯の如き所でありまして、併し乍ら其帯の如き所を我々が自動車で通つて見ますと、東海道濃尾の大平野などはとても及ばぬやうな平野が次から次に展望されて來るのであります。それで此國のいかに廣いかと云ふことがお判りになるだらうと思ひます。さうして大部分はそれが皆米田であります。私共の歩いた時はすつかり植付けが済んで居りまして、其上をそよ／＼と風が通つて居ります景色は萬頃の波とでも申しませう

か誠に何とも言へない風情でございました。

此河内と順化府の間は時間で申しますと一晝夜行程でございます。私共はそれより少し早く参りましたが、道筋は大したこともありませんから略しまして、順化府のことを少し申上げます。順化府は安南の舊都でありまして、今尙皇帝が其處に住んで居られます。昔の印度支那と云ふものは老越、これは後に暹羅の方から取つたのでありまして、此老越と安南との分水嶺から西の方及びカムボヂヤの一部を除いたものが印度支那であつたのであります。所がそれが段々ヨーロッパの政治的勢力が及んで参りまして、殊に印度支那に就てはイギリスとフランスとが緬甸の關係、印度支那の關係で支那や暹羅を壓迫致しまして、海峽植民地が北方に擴がり又緬甸が膨脹することになり、フランスは老越の方に侵入すると云ふやうに此土地を擡げて参つた。昔は此太湖(地圖を指す)の眞中位の所が國境でありましたが、それが斯う云ふ風に擴がつたのであります。さうしてメーコン河の左岸が全く印度支那の勢力區域になつたのであります。此順化府は景色も却々良うございますし、何と言つても古いだけに趣きが違つて居ります。こゝには有名な香河と云ふのが流れて居りまして、之に恐ろしく長い鐵橋が架つて居ります。

王宮と帝陵 さうして王宮は昔の儘の面影を残して却々廣大な建物があります。私共は政府の特別の配慮で皇帝に謁見を致しました。それからすつかり内部を見せて貰ひましたが、支那の北京などの建築と比べますとそれは大分劣りませんが、兎に角朝鮮の建築よりは餘程堂々と致して、さうして裝飾等も却々完備致して居ります。數多き殿堂の内には或は靖國神社の如く忠臣烈士の靈を祀るやうな所もありますし、歴代の王の功業を録した鼎を前に並べた御殿もあり、種々昔の面影は止めて居りますけれども、今の皇帝は唯印度支那政府の賄ひで、殆んど虚位を擁して居るだけで、總ての政治向のことはフランス政府の代表者たる總督の指揮を受けて居ります所の地方長官(レジタン、シューベリオール)が總て相談に

興る、先づ指圖をして居るやうな形であります。それだけで日を送つて居るのであります。よく申します「國亡びて山河在り」と云ふ感じが我々にも致しますので、國民が努力の足りない結果とは申しながら聊か同情に堪へないのであります。香河と云ふ河は老樞から直接には參つて居りませぬが、此一部が山深く入つて居りまして、此邊の材木が此河に出て參ります。それが此地方の特産物になつて居ります。それから絹絲紡績と云ふやうなものが近頃勃興しつゝあります。其他土人の嗜好品、日用品斯ういふ製造工業が段々興つて居りますが大したものはありません。先づ昔の京都見たやうな所で、景色の好い所の舊都であると云ふだけのことであります。唯こゝで遊覽客の目を驚かさすものは古來の帝陵であります。昔の歴代の王様の墓が明の十八陵或は南京の孝陵程のものはありませんが、却々立派に造られてあります。歴代の王は自分の生前に墓を拵らへさせて、さうしてそれを誇つて居ると云ふ譯であります。貧弱な國柄に似合はず金をかけて立派になつて居りますが、唯今日にあつては外國觀光家の見物の材料になつてゐるだけで、修理なども餘り行届いて居りませぬ。それで國王が歿しますと其左右に居りました親近の者は其墓の傍に家を建てまして、例へば寵愛されて居つた所の妃や官宦の如きは其處に番をして一生暮らすと云ふことになつて居るのであります。傳ふる所に依ると若い者は皆逃げてしまつて、年寄だけが残つて居ると云ふことであります。私共が見たのも概ね老人でありましたから、何處に昔の悌が残つて居るかと疑ふ位であります。此香河の側に景色のよい遊覽地があります。其反對の側は矢張り森林が續いて居る所でありまして、此邊迄虎が出るさうであります。それが河を渡つて民家の犬を襲つたり偶には人を襲つたりすることがあるさうであります。

ツライヌ(横山關、海雲關) 二月十八日私達は順化府を去りまして柴棍への旅に向ひました。順化府からツライヌと云ふ港迄約三、四時間掛ります。其處から私共は船で柴棍へ參りました。丁度アマゾン號といふフランス郵船の便がありま

してそれに乗りました。順化府からツライヌ迄の間には非常に景色の好い所があります。大體支那の道路には私共感心したのでありますが、随分古い時代から此邊は國道はもとより一本しかなかつたのであります。其國道は昔支那の文明の時代に拵らへた道が矢張り今のフランス人の道になつて居る。それは順化府に參ります途中に横山關と云ふ所があります。丁度此邊の山脈が海岸に突出する所でありまして、そこはフランスの遠征隊が安南の兵隊と激戦を交へたといふ古戰場であります。成程其處で相當な守備をして居りますれば非常な要害であらうと思ふやうな展望のよく利く所でございますが、そこにも増した要害が又此邊にあるのであります。そこはアロン灣と並んで印度支那の絶景として語はれて居ります。私共はそこでは少々驚かされた。或人曰くこれは日本の三景に箱根、熱海、あゝ云ふ所を掲げ交ぜた程の景色である、斯う云ふことを申しましたが、それは海拔千二百尺位の處から即ち殆んど山の頂上より海邊迄の間に一筋の自動車道を作つて居る、其一番上の高い所に海雲關と云ふ頗る展望の良い所があります。安南人がそこに拵らへた關門があります。煉瓦で拵らへたもので横山關にあるのと略々形は同じで規模は遙に大きなものであります。安南人が關を備へて要害を扼して居つたに違ひない。其隣に白雲峽と譯しますか、クラウド、バスといふ良い景色の所があります。其處を通つて一瀉千里に下りましてツライヌの港に參る。此處が日本と印度支那との歴史には、かなり古い緣故のある所でありまして、昔長崎方面で基督教が盛んになつた後遂に迫害をされたために其宣教師がその教徒を連れて此處へ渡り、此港から段々奥に入つて行つたと云ふことであります。

ファイホ(日本人遺跡) 恰度自動車で二時間位の所にファイホと云ふ町があります。こゝに日本人の遺跡があります。日本泉州の商人彌次郎兵衛の墓といふのが田圃の中にあります。其他にも日本人の墓があると云ふので見に行きましたが、それは何だか支那人の墓らしいのであります。併し其町は恰度河縁の町でありまして、其町の中に日本橋と云ふ橋

があります。擬寶珠の附いた小さな反り橋でありますが、何だか昔はさう云ふものであつたかと思はるゝ節もあります。今は構造が少し變つて居りますから、ちよつと見ては日本の橋と云ふ感じは起りませぬが、昔は日本人がそこに澤山居つてそれを日本橋と付けたものであらうと思ふ。そばに來遠橋と言つて碑が出来て居ります。又此邊にありますが百姓家が目に付いたのでありますが、日本の百姓家と少しも構造が違はぬ、これは此方が日本に移つたのでなくして、或は日本の百姓家の方が此方に移つたのではあるまいか、如何にもよく似て居る。恰度海防より河内に行きます間、田が小さく區切られて稲を植へた具合、植付けをして居る具合が日本とちよつとも變つて居らぬ、それと同じやうな感じに打たれまして、大いに興味を唆つたのであります。日本人の遺跡だと云ふ町を一通り見まして、私共は其晩ツラーヌから乗船して柴棍に参つたのであります。山縣使節の一行は之より自動車で海岸傳ひに汽車の終點迄参りまして、それから又汽車で柴棍に入られたのであります。私共は二日遅れて柴棍に参りまして、柴棍からフノンベンを見て更にアンゴールの寺を見物に行つて再びフノンベンを経て柴棍迄つと歸つたのであります。

サイゴン 佛領印度支那は大体五つの國からなつて居りまして、本當の殖民地と云ふのは交趾支那即ち柴棍の町のある所です。これは占領してより丁度六十年、老越、東京、安南、カムボヂヤ等他の四州は占領致しましてから四十年以内、それで柴棍には副總督が居りましてガヴァナーと言つて居ります。其外各州には長官がありますがそれが皆總督の支配を受けて居るのであります。こゝは占領後年處を経て居るのでありますから、餘程よく拓けて居るだらうと考へて参つたのであります。成程柴棍の町は相當の西洋風の街になつて居ります。又港も岸の入口から段々溯つて三十數哩の所にある、それであるから既に立派なものであります。尙擴張が幾らでも出来る、全く形勝の地であります。かくて相當の經營をして六十年來やつて來た所であるに拘はらず、交趾支那全体としては米田の如きも尙三分の二しか開發されて居ない、

三分の一は未だ處女地であります。さう云ふ状態である。其外でも米作地は皆よく行き互つて居りますけれども、フランス人の經營としては其他のことは未だ研究中若くは着手準備中と云ふやうな状態としか見られませぬ、別に雄大な經營はないのであります。私共は此國の活動寫眞を撮つて参りましたが、其活動寫眞の標題を何と付けたらよいかと思つて囑託に相談しましたところ、五來教授の如きは「眠れる大自然」と付けやうではありませぬかと云ふことでしたが、さうするとフランスの先生方が眠つて居るのだと言はれて氣を悪くするかも知れぬからそれは止めましたが、本當は未だ眼が覺めぬので、幾らか目を擦つて居る程度だと私共は思ひます。

メーコン河流域の米作 此柴棍のあります港の方からカムボヂヤの側の方迄所謂メーコン河の流域である。これは西蔵、緬甸の方から源を發して河流は四千キロメートル程の長さがあります。非常に大きな河であります。此大なる平野はメーコン河の吐き出す所の土砂によつて段々出來たやうに思ふのであります。さてどの位宛土砂が毎年流れて來るか云ふと、或地方で調べて見ますと三寸位、洪水が來て引きますと土地が高くなる。これは皆礦物と或微生物を含んだ水を流しますので、これが皆肥料になるのであります。一年の内何ヶ月かは此邊が氾濫して居る、それが引いた後に田畑が出來、米は無論出來ます。洪水がありますと水の丈だけ伸びる稲も出來る、さう云ふ譯で此一帶はよく米が出來る、柴棍とかカムボヂヤの話が一緒になりましたが、米作地としては一番良い所であります。こゝから出ます所の米が大抵一、二十萬噸、ちよつと七百萬石の産額が土民の食つた餘りとして輸出されるのであります。

シヨルン(米輸出港) 其輸出されるのは柴棍の近くのシヨルンと云ふ港から出るのであります。此シヨルンと云ふのは南洋の華僑即ち支那移民が此町を作つて居るので商業を活潑にやつて居る。而もそれが二十萬人居ります。大なる精米所が十八、大方支那人の經營である。フランス人も少しは入り込んで居ります。此地は米の投機の非常に盛んな所で、

殆んど日本と同じく投機の目的物となつて居つて、常に相場を上げ下げして居る。それらの商權は皆支那人の持つて居るのにフランス人が若干割込みつゝあると云ふ状態であります。それから日本人は幾らも居りませぬ。ほんの四、五の店の代表者が指を屈する程しか居りませぬから、柴棍邊りで日本人をよく知つて居るものは誠に少ない。商賣人でも其他でも例へば日本の有名な指折りの商店でありまして、此邊の街の片隅に事務所があると云ふやうなことで、支那人などの盛んにやつてゐる勢とは匹敵すべくもない。或人嘆じて申しますのに、せめて支那人の勢力の百分の一か五十分の一かあればよいと言つて居りますが、私は始めにそれを謙遜の言葉と思ひましたが、聞いて見れば全く本當らしいので、頗る人意を強うしないのであります。私は一日シヨルンに行きまして或る精米所を見に参りました。其處で膝だらけになつて見て居りますと、後ろの方から「ヤアどうですか」とだしぬけに私に話をし掛ける人間があつた。それで私は支那から日本へ留學でもして居つたものが此處に来て居るかと思つて振向いて見たのであります。さうすると正に支那人のやうな顔をして居つた。「君は日本に来て居つたか」と言ふと、「私は臺灣人です、臺灣でちよつと教育を受けたのでありますけれども、將來の事を考へると自分も獨立して米の商賣をやりたいと思つて、二年程前に来て此處の勞働者になつて住込んで居るのであります」と膝だらけになつて私と話をして居りましたが、其言語は明晰で頭の下さそうな若者でありました。さういふやうな人間が幾らも来て居る。私は豫ねて南洋の華僑即ち支那移民が志を立て、南洋に行つて勞働者に身を伍して、段々と貯蓄をして相當な資本家になり、良い商賣人になつた話を聞いて居りましたが、こゝに見た斯う云ふ先生達が成功するのだと思ひました。相當な顔もして居るし、相當な教育も話によつてあることが判りますが、それが全くの勞働者となつて營々として汗を出して働いて居る。もう二、三年居れば大抵此の埃の内で取引の様子が判りますから、愈々それが判つた時分に小さくとも貯へた資本を以て自分が獨立してやります」斯う云ふ話をして居りました。それで私

は同僚と一緒に感心して激勵の言葉を與へて歸つたのであります。さう云ふ連中が幾らも居るのでありますから、シヨルンの支那人の如きは非常な商權をもつて寧ろ西洋人を眼下に見下す位な勇氣を以て仕事をして居る。

無線電信所、飛行場、要塞 フランスの無線電信所、飛行場が柴棍とシヨルンの間に頗る規模の大きいのがあります。我々の一行が此處を見に行つた時分に平氣で見せましたのであります。今度此佛領印度支那を歩いて感じましたことは、政府の方で極めて開放的であつたと云ふことであります。柴棍から船で出ます所の陸地の口などには要塞がありません。其要塞の附近に於ても別に活動寫眞などを撮ることを餘り嫌つて居りませぬ。總て思ひの外開放的でありまして、かう云ふ心持が何日迄続くだらうかと思ひましたが、然し極めて好い感じを致しました。

フノンベン 二月の二十二日、柴棍からカムボヂヤの方に参りましたのであります。フノンベンの都迄は自動車でちよつと七、八時間かゝります。こゝはカムボヂヤの王の住居でありまして、安南で見ましたのとは違ひ、カムボヂヤ獨特の建築と相當な宮殿があります。そこで王に御目に掛りましたが、此處ではカムボヂヤ踊りと言つて塔のやうな形の兜を被りまして、燦爛たる金銀色の裝飾のある衣服を着て、王室の踊子になつて居る若い娘さん達が踊りますのを一晩王様の招待を受けて見ましたが、餘程此邊は南方の色彩が特に目立つて居るやうに思はれました。其詳しい御話などは又後で致すことゝしまして、此處はフランス人が千人位居ります。種々な米の取引其他の商賣の中心になつて居ります。

アンコール遺跡 此フノンベンの都から又自動車で恰度八、九時間致しますと、有名なるアンコールの遺跡に到着するのであります。是が出来ましたのは紀元九世紀、アンコール・トムとアンコール・ワットの二つありますが、トムの方が古くワットの方が新しい。前後三百年も費して出来たのであります。此材料はサンドストーン(砂岩石)ださうであります。餘り固くない石であります。それをセメントも使はず楔も使つてないやうであります。何か石を積重ねただけで、千

年若くは八百年の今日尙相當の形を保つて崩れない所が澤山あります。それには精密な彫刻がありまして、所謂クメール王朝の時分の遺物であります。私共内部に入つて見ますと、つひ此間彫つたのでないかと思ふやうな少しも壊れて居ない彫刻が澤山あります。其中の彫刻及び佛の数がカムボヂヤ人の住民の數と同じだと云ふ言傳へがあります。カムボヂヤの住民の數は二百五十萬位ある。さうすると非常な澤山の彫像があると云ふことが想像される譯であります。其物は唯今日では昔のカムボヂヤの文明の遺跡と云ふだけに止りますが、非常に規模の雄大なものでありまして、丁度百五十萬の市民を收容することの出来る規模で拵らへ始めたさうであります。全く昔の宗教上の一つの感激で始められたものでありますから、當時の國費を擧げて作つたやうに本には書いてありません。誠に立派な雄大な建築であります。多數の考古學者、建築家が亞細亞に於ての最も驚くべき建築の唯一のものであらうと云ふ讚辭を呈して居つたのも偶然ではありませぬ。さういふ建築のクメール王朝の雄圖もその後隣邦シャム族の侵掠に逢ひ間もなく滅亡するの餘儀なきに至りまして、爾來風雨幾百年の間此邊が見渡す限りの森林で一杯になつて居りまして、それが爲めに全く世間から忘れられて居つた。それを十九世紀の中葉頃フランスの技師が探險に参りまして、森林の中で此遺跡を發見して政府に上申をして、非常な努力と金を掛けまして、兎に角其遺跡を世間の人が見ることが出来るやうな状態に逆整頓を致したのであります。丁度私共が其處に参りました時分に山縣使節と、

アンコール踊 一緒になりました。村の催しで本當のアンコールの踊を見ましたのであります。其の模様を御話致しますが、私共はアンコール・トムからアンコール・ワットの方に全速力で見物を致しまして、到着致しましたのが丁度六時半頃でありました。もう薄暗くなりました時分に、村の者が數百人松明を點けまして行列を作つて、寺の前に並んで居るのであります。其松明は彼處に特殊の木がありまして、非常に丈の高い木であります。根本の方が自然薯のやうに

廣く蔓る木であります。それは向ふで聞きますと飛行機に最も良い木ださうであります。其根の所に油を含んで居る。其木を材料とした松明で直径三寸長さ四尺位であります。それで大抵五時間位は大丈夫ださうであります。それを葉で包みまして葛で結んである。さう云ふ松明をもつて大凡二百人位の村の老若の男が、寺の前の廣い敷石の道があります。其兩側に並んで居る。其處に金銀色眩ゆき服裝をなせる若い踊子が十四、五人出まして、妙なる音楽につれて踊るのであります。日はすつかり暮れまして暗くなつた時分に、恰度日本で申しますと仕掛火花見たやうな物をもつて参りまして、其火花に火を點けますとサーチライトのやうな光が四方に向つて出るのであります。其光の後ろにアンコール・ワットの寺の大きな三つの塔、それが繪のやうに浮いて見えるのであります。吾々の目の前には長い二列になつた聖火の松明、それから燃え落ちた火が踊り子の衣物に美しく光の反射を投げる、まるで髣髴として夢の世界にあるかの如く、如何にも壯麗の景色であります。其景色の前で一時間位踊るのであります。緩やかな音楽の旋律につれてさす手引く手のしなやかなる、實に古典的な感じのする踊でありました。前に申しました通り同じ踊をカムボヂヤの王の宮殿の中で見せて貰ひましたが、其踊よりもこゝのは非常に我々に限りなき感興を興へましたのであります。それは毎年はないのであります。日本の使節團一行の來られたのを記念する爲めに、特に村で催しをやつたのださうであります。

アンコール所見 アンコール・トムのあります附近は昔の皇帝の居つた所、或は皇后の居つた所、皇太子の居つた所、夫々皆一劃をたして高さ九尺もある煉瓦壁で以てすつかり圍ひまして、其中に石で造りました所の宮殿が出來て居る。それが大方壊れて居りますけれども、充分にありし昔を想像するに足るだけの遺跡が今も遺つて居る。丁度私共は午後三時から六時頃迄全速力で見て歩いたのであります。其アンコール・トムの昔の廟の跡であらうと思ふ所を通りまして、數十匹の尾長猿が林の中に居りまして、奇聲をあげて飛び違ひ飛び違ひして互ひに巫山戯て居る。如何にも自然なちよつと

外で見られぬやうな景状に接しました。それから鹿でありますとか野生の動物が折々森の中から飛び出すと云ふことに二、三度遭遇した。此處から二十キロ位離れますと象の群の居る所があるさうです。それから日によりますとアンコール・トム邊りの森の中でも豹が出る。此象の方は一體おとなしうございますが、暴れると却つて猛烈なものださうでございます。象に就て面白い話がありますが、彼は汽車を非常に嫌ふ。安南の或地方などでは、メルラン總督も其事を話して居られましたが、汽車が通ると非常に象の感情を害して、怪しからぬ奴が通ると思ふのでもありませんか、あの鼻を枕木の中に突込んで持上げると、軌道が枕木と共に浮いてしまふ。それをすつと象が押し曲げて行くと汽車は暫く不通になる、といふやうな悪戯をするさうであります。而も一再ならずさう云ふことがあつたさうであります。

もう一つアンコールで大變記憶に残りますことは、廻廊の天井兩側を見ますとアーチの形には出来て居ない、アーチの形は石をセメントか何かでくつ付けないと接ぎ合せが出来ぬと思ひますが、彼處は石を兩方から出して甲州の猿橋の構造見たやうに、少し宛兩方から出してお終ひにくつ着けてあります。さう云ふ古い式のものでありますが、其間が蝙蝠の巢になつて居る。丁度私共が猿の群を見て自動車でアンコール・ワットの寺の方に参りますと、其道で其ワットの寺の中に巢を作つて居る蝙蝠が殆んど空を掩ふて眞黒になる位飛んで居る。これは土人でも餘り屢々見ないさうですが、其數は幾らあるか勿論判りませぬが、殆んど空を掩ふて居るので百萬と號してよいだらうと思ふ位飛んで居りました。寺に入りますと蝙蝠の小便の臭ひが非常であります。一體に薄暗い廣い所であります。寺の境内の横の方に僧堂が出来て居りまして、國中から坊さんが集つて、神聖なる修行を致します。此處で修行をした者でないとは幅が利かないと云ふので皆来るさうであります。私共は五來欣造君の通譯でフランス語を知つて居る坊主が居りましたから、其坊さんと色々話をし、一緒に寫眞を撮つて参りました。十四、五軒の僧堂がありまして、そこに百四、五十人位修行をして居る者が居つ

たらうと思ひます。

バンガローと道路

アンコールから往復する道は殆んど一直線ですが、それは近頃拵らへたものゝ様です。こゝを遊覽地として遊覽客を引く爲に造つたものらしい。印度支那では旅行を致しますのにまだ充分拓けて居りませぬから、ホテルがない。丁度朝立ちますと晝飯を食ふ所と晩に泊らうと云ふホテルが未だ出来て居ないので、バンガローと云ふものがあります。木造のちよつとした家が出来て居る。そこでは簡単な飯も食へるし、泊れするのであります。其バンガローなども今は段々進歩して殆んどホテルのやうな大きなものが建てられつゝありまして、この大きなのは政府の補助があります。私共もそこで飯を食ひました。アンコールにもさう云ふものが出来て居ります。却々道路及びさう云ふ風な設備がよくなつて参りまして、定期の旅客自動車も通つて居ります。又先の方に行くとき乗合自動車も通つて居ります。それから經費の都合で自動車で旅をすることの出来ぬ連中は河を汽船で上下するのであります。これは矢張メーコン系統の大きな河であります。此河は場所によりますと一哩半位の幅の所もあり、二哩ある所もあるさうであります。さう云ふ所をサンバン若くはジャンクが行列を作つて荷物及び人間が往復して居る。誠に雄大な趣きであります。此カムボヂヤの大平原の産物は、多く道路を通らないで大部分は水運によつて出て来るのであります。でありますから其運賃は非常に安くて、道路も餘り壊さないで、澤山の産物が此河を利用して出て来るのであります。

太湖 私共はこゝを立ちまして歸路再び太湖を右に見つゝフノンペンに歸りました。此太湖は非常に大きな湖水であります。メーコン河が溢れますと此附近四十方哩位に水を湛へるのであります。それが濁水期になりますと段々下へ流れるやうになる一の調節貯水池であります。此邊はそれが爲めに豊饒で米がよく出来る。或は場所に依ると棉が出来ます。それから太湖の中には鱸水魚が居る。鱸とか鯖なども居る。此邊で漁れる魚を乾製又は鹽漬にしまして支那方面に

送るのでありますが、其産額はかなり大きなものであります。

柴棍とカムボヂヤの境の所を通りまして一番感じますのは、此あたりには山はありませぬが、田畑の景色は直ぐと違ふのであります。此邊は椰子や檳榔樹が盛んに生えて居る。それと百姓家の作り方、人間の服装も違ふ。人種骨格から見ても馬來人の混りらしいのであります。草木の色も違ふと云ふやうな風で、交趾支那とは劃然たる區別があるのであります。

前に柴棍の所で申上げましたが交趾支那は三分の二しか開發されて居ない。カムボヂヤは交趾支那に近い方が開發されて居ない。これは蓋し此邊の農業、文化が暹羅の方から來たものでありまして、此境は兩方の文化接觸の中間地帯のやうになつて居る。もう一つはイリゲーションの關係で、水利の便の悪い爲にそこ迄農業が拓けて居ないと云ふこともあるやうであります。此邊の田地には鹽分を大變含んで居ることがある。それ等の關係で充分に作物も出來ぬ所があるのであります。何れイリゲーションがよく出來ると、此邊の米の産額が尠くも輸出が五割増になる位は餘り難くないと云ふことであります。

メーコン河及び紅河 それから延長四千キロメートルの大メーコン河及び東京の紅河は、印度支那の農業的富源を養つて居る所でありませんが、メーコン河の方は丁度地圖で申しますと、老福の南界とカムボヂヤの北の境邊りが瀑布及び急流のある所でありまして、こゝは舟が通れませぬ。此上の二千哩位は小舟が通り、下は全部かなり大きな汽船が通るのであります。此カムボヂヤ、交趾支那の大平原は今申すメーコン河の水運の便利で非常に好都合になつて居るのであります。

鐵道 話が元に戻りまして鐵道のことを申上げますが、印度支那全體で今日ザツト壹千哩開通して居ります。今柴棍から北方ホンコエ湖の近邊迄參つて居りますが、其先は現に今建設の準備中でありまして、ツラーヌから先づ若干哩の間鐵道が出來て居りまして、之とピンと云ふ地方に一部出來まして、近い内開通する所がございます。これが全部出來ますと雲南か

ら柴棍迄縱貫鐵道が貫通する譯になる。さうしますと印度支那の産業に偉い力になるだらうと思ひます。唯雲南鐵道に就て一言申上げておきますが、これは地圖で見ますと東京平野から雲南府へと縱貫致して居りますから、非常に有力なる鐵道の如く思つて居つたのであります。これは私は參る時間がありませぬので、人に調べて貰つたのであります。此鐵道はフランスの經營としては餘り成功して居らないと思ひます。何となれば例のメートルゲージでありますこと、唯雲南府への鐵道を造ると云ふことが急でありました爲めに、勾配などが節約をして出來て居ります。詰り無理な勾配が採つてあります。カーヴも無理がしてあります爲に輸送力に限度がありまして、大した輸送力はないのであります。此鐵道を通じて海防から雲南府に至る通過貿易はかなり盛んでありますけれども、鐵道の輸送力から言ふとマージンに近いものになつて居るのであります。之を改良してやり直すと云ふことは鐵道専門家の話を聞きますと殆んど不可能であるまいか。線路の取り方が非常に儉約をして居る。殊に支那領内の先の方は文人畫の山水のやうな所で、羊腸崎嶇たる山路を陸道を以て通じて居るのであるから、輸送上大した期待をすることが出來ない。今英領緬甸の方から雲南府の方に行く鐵道をイギリス政府は現つて居りますが、これが若し出來ると支那の奥地の富源は此鐵道によつて緬甸の方に吸取られてしまふのであるまいかと云ふ説がありますが、我々も聊かさう云ふ感じが致します。今日此雲南鐵道はフランスが非常な利害關係を持つて居りますだけに、他國の荷物は多分な通過税を取られる上に、輸送は鐵道の都合次第でありますから、日本關係の貨物の如きも雲南の方に行き或は雲南から出て來ることは多大なる不便を感ずるのであります。或實業家などは雲南鐵道に日本が投資をして、其權利によつて相當な發言權をもつて、通過税などに對する若干の調節を得るのでないと、見す／＼支那の富源の雲南省其他を控へて居りながら、之を利用することが出來ないのは遺憾であるといつて居ります。こゝは銅、亞鉛其他礦物は何でもあります。又鴉片も出來ますし、種々な天産物が無數にあります。それから住民も六、七百萬人居りま

すから相當な消費もあるのでありますけれども、それと日本との間の交通は通過貿易の故障の爲に見るべき程の何も出来ないと云ふ状態にあるのであります。

先づ自動車を通りましたり船の上から見た所は、さつと唯今述べましたやうな譯でありまして、是から少し産業的方面のことに入つて見たいと思ひます。

印度支那の産業 私共の一行は老練には参らなかつたのであります。これは道路が未だ不完全であります上に、多く時日を要しまして一月位かゝる。未だちつとも拓けて居りませぬから相當な設備をせぬと云ふと泊ることに差支へると云ふ状態でありますので、今度は時日があるにせぬから略しましたが、こゝは印度支那のうちの最も富源の開発されてない所であります。暹羅と云ふ國は傳え聞く所によりますれば、鐵道などの建設は通常經常費でやつて居ると云ふことであります。經常費にそれだけの餘裕があるのは奥の森林の收入が多いからと云ふのであります。老練などもそれに一致して居るやうな森林もあります、礦物もあります。將來これが開發が出来ることになりなると、印度支那の富源は更に大を加ふることにならうと思ひます。今ピンと云ふ所から鐵道をラオスまで横斷的に架ける計畫をして居る、それが出來ますれば礦物或は材木が之に出まして、北安南にベンダイと云ふ港がありますが、そこが盛んなものになるだらうと云ふことであります。

輸出入貿易 それで印度支那の輸出入の貿易の趨勢は毎五年の平均がこう云ふ風であります。

品名	重要輸入品十種		重要輸出品十種	
	百萬ピヤスター	總輸入に對する百分率	百萬ピヤスター	總輸出に對する百分率
綿織物	二七	一七%	米及副産物	九八
				五七%

油類及香料	一〇	乾製糖類	一三
雜貨	七	鹽藏各魚類	三
金屬製品	七	石炭	六
絹織物	七	ゴム	四
諸器械	六	鉛	四
鐵及鋼	五	胡椒	二
化學工業品	五	畜畜	二
酒類	三	獸皮	二
綿糸	三	土産粗糖	二
線糸	三	コブラ	二

佛領印度支那に於ける (一八八九九より一九二三年迄の間) (單位千金フラン)

年次	輸 入	輸 出	差 額
一八九九—一九〇三	一八四、七〇〇	一四九、四〇〇	三五、三〇〇
一九〇四—一九〇八	二二二、九〇〇	一六九、七〇〇	四三、二〇〇
一九〇九—一九一三	二〇六、〇〇〇	二三六、八〇〇	三〇、八〇〇
一九一四—一九一八	一九六、〇〇〇	二七五、〇〇〇	九九、〇〇〇
一九一九—一九二三	三一、〇〇〇	四六五、〇〇〇	一五四、〇〇〇

印度支那に商品を供給する主なる十ヶ國		印度支那より産物を購入する主なる十ヶ國	
輸入	百萬ピヤスター	輸出	百萬ピヤスター
佛本國及殖民地	八二	佛本國及殖民地	七六
香港	三四	香港	三四
支那	一一	支那	一九
英領印度	一一	シンガポール	一四
蘭領印度	六	日本	六
シンガポール	五	日	六
米	四	ヒリツピン	六
英	二	アメリカ諸國	四
日	一	白耳義	四
瑞	一	蘭領印度	二
		暹羅	二

最近は輸出が超過を致して居ります。これは印度支那の富源が漸次拓けて來たと云ふ證據であります。大体印度支那に於ては入る物は加工又は精製工業品即ち日用品、器械類或は其他衣食に關する物、而して出る物は皆天産物であります。故にそれ等の輸出入の數字は輸出の多い所は天産物が澤山出だしたと云ふことになつて居るのであります。

對日本經濟狀態 それから印度支那に商品を供給する主なる十箇國が斯う云ふ風な順序になつて居ります。之は同國政府發表の統計によつたのであります。日本は百萬ピヤスター即ち日本の百圓が最近の相場は六十八ピヤスター位でありますから僅かであります。百分率で申しますと、印度支那に商品を供給する主なる十箇國の内には入つて居りますけれど

も、總輸入の百分の一しかない。印度支那より産物を購入する十箇國の中で日本は百分の三しか占めて居ない。さうして六百萬ピヤスター位しか輸入して居ないと云ふ事になつて居ります。それから輸入品中の重要項目十種は此表の金高及び比例でございます。輸出産物中の重要物の十種は第一が米でありまして、其次は鹽漬の魚、それが百分の八で第二位に位して居る。石炭が三パーセント、ゴム、亞鉛、胡椒、家畜、獸皮、土人製のブラウンシュガー及びコプラと云ふことになつて居りますが、亞鉛は年に三、四千噸位と記憶して居ります。石炭は合計百萬噸乃至二百二十萬噸であります。家畜は輸出の百分の一になつて金額が二百萬ピヤスター位であります。印度支那には日本のやうな牛は澤山は居りませぬ。耕作には皆水牛を使つて居ります。其水牛は印度支那全体に三百七十萬頭、それから豚が二百四十萬頭、これが主なる家畜の數であります。

如上日本との經濟關係は其地理的の便利あるに拘はらず餘り發達を見ないのは關稅の關係が第一であります。我國との交通關係は大阪商船が西貢に寄船する外、東京灣の海防に山下汽船が臺灣總督府の保護により、大正十年より始めて田臺灣總督の英斷によるものがあります。其保護の下に一箇月二往復の定期航路をやつて居ますけれども、關稅が今申す通り貿易上には始んど禁止的影響を與へて居たのであります。昨年來此問題が大いに改善さるべき過程にあるので、此の方の障害は大いに減少する時期が遠くあるまいと思ひます。

水牛、犬、役人 こゝで一寸餘興のお話を挿入れます。印度支那を歩きまして一番始めに目に着きましたのは水牛の上に子供が乗つて居る事でありまして。支那の文人畫に牛の上に牧童が乗つて居るのがありますが、牛が大きくて牧童が餘りに小さいのが不恰好であります。あれは水牛だからなのであります。それから子供の居りませぬ時は水牛の頭に鷺とか白や黒い色の小鳥が乗つて遊んで居る。如何にも平和な日本などに見られない圖であります。もう一つ笑ひ話であり

ますが、フランス人などが聞くと良い心持がしますまいが、安南に斯う云ふ言葉がある。安南で外國人を嫌ふものが三つある。それは第一が水牛、第二が犬、第三は安南の役人だと申して居ります。安南の役人は兎に角壓迫されて居るから止むを得ず服従して居るのでありませうが、蔭に廻ると憎まれ口をきいて居る。それから犬が西洋人にどうしても馴染まない。水牛に至つては非常に優しい顔をして土人にはよく馴れて居る。殊に子供に對しては最も優しい。子供が遊んで居る所に偶々猛獸などが來ますと、水牛が自分の脚の間に子供を入れて保護しつゝそれと闘ふと云ふやうに子供に愛着を持つて居る。其水牛が外國人を見ると角を立てゝ怒ると云ふ譯で、外國人を此三つが嫌ふと云ふことを申して居ります。それに拘はらず外國人の勢力は日に増し却々殖へつゝあります。

對日感情の好轉 斯う云ふ風の産業の状態ではありますが話が一轉致しまして、何故にそれでは印度支那へ答禮使が行つたときにさう云ふ歓迎の状態を呈したか。それには何か理由があらうと云ふことは自ら疑問が湧いて來るのであります。河内の新聞社長や種々な實業家又は識者に逢つて話をして居ります内に斯う云ふことを申して居つた。此土地に居つて我々が考へて見ても、二、三年前と今日とは日本に對する我々印度支那に居る所のフランス人の感情には殆んど隔世の感があると、かう言つて居つた。これは幾らかお世辭もありませうが、嘘ではない。其證據には二、三年前に彼地に日本人などが行きますと、大低密偵の目が光つて居つたさうであります。それから何處を見やうと言つても一向受付けなないで頗る冷淡であつたさうであります。メルラン總督が昨年來られて以來餘程感情が變つて來まして、海防、河内の商業會議所の會頭、之などは皆排日派であつた、それが歸りますと親日派になつて、副會頭は排日派であるに拘はらず、會頭は關稅などの問題に熱心に努力して居ることは明かであります。さう云ふ風に日本に對する感じが非常に變つて來た。前に排日をして居つたのは大した根據はなく、日本を諒解しないことが原因の主なるものでないかと思はれます。向ふの小學讀

本に日本のことが書いてある所に、向ふ鉢巻をした子守が蕪茸の家の前に立つて居る繪が書いてあるやうな譯でありますから、日本が判るものでない。柴根の元老である州會議長等に御馳走になりました時分に、私は州會議長の隣に坐つて居つて話をしましたが、實は君日本人に接したのは今度が初めてである。柴根などにも多少日本人が居らるゝけれども、外で見た日本人はまるで我々に好い印象を與へなかつた。話をし掛けても向ふを向いてしまつて極めて無愛相、さうして近寄り悪い。甚だ我々愉快でなかつたが、今度は諸君等と御一緒になつて種々話を交換して非常に面白い」と云ふことを申して居りました。これは交際上のお世辭もありませうけれども、兎に角我々一行に對しては諸種の研究材料を提供し、便宜を計り、又至る處野の果て山の裾と云ふやうなところの百姓家でも皆旗を立てまして、其經費でも大したものであらうと思ふ。非常に親日關係が濃厚になつて來たのであります。尙首府の河内或は柴根の政治方面或は經濟方面で、親日の感情を表して來たのは他に理由があるだらうと思ふ。或人はそれを斯くの如く解釋して居る、ヨーロッパの大戦後イギリスはアメリカと種々な經濟關係其他で親密になつて居ることは御承知の通り、背後にはドイツと云ふ永い間の敵手を控へて居る。それでフランスの一番力を注ぐべく且つヨーロッパの他の勢力範圍と接觸をして居る所の南アフリカに於ては、フランスの殖民地はかなり外國の競争壓迫を感じて居るのであります。之に對して相當な資本を下し適當な經營をして行くことは、フランス本國としても餘儀ないことでありまして、之には可なり金を使つて居るやうであります。詰り印度支那には手が廻らない。其手の廻はらないのは夫々の事情があつて廻らないので、そこにもつて行つて緬甸にはイギリスの勢力が牢乎として抜くべからざるものがあり、それから新嘉坡には大要塞、大船渠が出来る。濠洲は又濠洲で非常に特殊な状態にある。フランスは其極東の大殖民地に對して若干の危懼を感じざるを得ないやうな状態にあるのであります。これは私は政治論を紹介する譯でない。兎に角一箇の感想を取次ぐだけでありますから、御聽き流しを願ひたいのであり

ますが、そこで些か淋しみを感じて居るのがフランスの本國又は殖民地に居る者の心持であらうと思ふ。

農商工會 もう一つは何れの殖民地にも共通の事情がありまして、こゝにも交趾支那及び四つの保護領の經濟關係に就ては一種の特權階級がありまして、日本でも北海道の開拓使の初めの頃などにはさう云ふこともあつたやうに聞きませんが、極く或一部の特權階級がありまして、それ等の人々が印度支那の利益を自分等の手に壟斷しやう、斯う云ふ考へを以て活動して居るのですが、此團體は商工會と云ふ名でフランス本國にあるのであります。此頃はそれに農が加はりまして農商工會と云ふ一つの大きな團體になつて居る。印度支那にも無論根據地見たやうなものがありませんから、其農商工會と云ふものが商業會議所の議員を出し、衆議院の議員を出し、政府の役人とも密接の關係がある。政府の役人を辭めて印度支那の大會社の株主又は重役になり商工會の中堅となつて居る人達も澤山あるのであります。海防に於ける或會社などは五百フランの株の拂込が七千フランを維持して居る。紡績會社の製品の値段は賣手の思ふ儘に決ると云ふ事情であります。それはどう云ふ譯かと云ふと、關稅で以て外國から來る物を押へてしまふ。詰りモノポリのやうな格好で、販賣者の欲する値段の儘に取引がされる。だから利益が上がり、株が騰る。それを保護する爲めには關稅の改正などはなるべくしない方がよいと云ふことになるのであります。此關稅改正は約十四、五年前から問題になつて居つて、屢々フランス本國で日佛當事者間に其事は試みられたのであります。何時も商工會の反對によつて始終故障があつたと云ふことを聞いて居りましたが、それはさもあるべきことでありまして、政治の問題と實業の問題とはさう云ふ點に於て衝突するのではないかと思ひます。所が最近は一つの思想が出來まして、印度支那の改良進歩はフランス本國の大問題である、それを或一派の壟斷に任せておくことは不親切且つ不利益であるから、宜しく從來の弊費を破らなければならぬと云ふ議論である。それ等は必ずしも實業方面許りに關係して居る議論ではありません。範圍が廣いだけに深い輿論になりつゝある。

さう云ふ輿論に乗つて來たのがメルラン總督であつて、同總督の日本を訪問されたのはそこに原因があるのでないかと思ひますが、これは人のサイコロジの問題でありますから、我々が想像を逞しうする譯に行きませぬが、印度支那は大體に於て右申上げる通り覺醒の状態にある。今日の空氣を何とか利用しまして、此空氣の冷めない内に日本人が經濟的に一層密接なる關係を結ぶことが必要でないか。兎に角支那と申しても各國が非常に利害が相交錯して居りまして、日本だけの獨り舞臺には行きませぬ。物を賣りますにしましても、或は原料を賣出すにしても相當な困難がある。然るにこゝは他の勢力が入つて居ない。南洋方面とも違つて居る。戦前はドイツの勢力が入つて居りまして、恐らく戦争がなかつたならば總ての利權をドイツ人が大部分占有してしまはせぬかと思ふ位でありましたが、それが大戦と共に消滅して、寧ろ拓殖では後輩である所のフランスの經營だけが残つて居るのでありますから、之に日本が參與することは位置から申しても當然であるし、必ずしも日本だけの利益でなく、こゝにある原料は大概日本が利用し得べき原料である。地理の上から申しましても當然斯くあるべき所でないかと思ふのであります。それは兩方の國の共存共榮の爲めに理屈のないことではなし、否却つて理屈のある道筋でないかと思ふのであります。

人情、風俗 こゝでちよつと印度支那の人口のことを申しますが、こゝは總體で千九百萬人です。一九二二年の統計しか私はもつて居りませぬが、交趾支那に三百七十九萬人、東京地方に六百八十五萬人、これは紅河の流域が昔から人口が一番稠密な所でありまして、殆んど餘地がないと云ふ位に殖へて居ります。それから安南に四百九十三萬人、カムボヂヤに二百四十萬人、老撾は僅に八十一萬人、廣州灣が十八萬人、即ち合計先づ一千九百萬人です。それで人口の増加率はかなり多いのであります。衛生の状態をざつと申しますと、我々の直感は今、土人は段々と貧弱になつて行くのでないかと思ふ。それは衣食住が極めて原始的の生活であります。それから富の増加する機會がないやうな状態では

ないかと思ふ。少し金を儲けると直ぐ博奕を打つたり飲み喰ひしてしまふさうであります。又貯蓄しても向上する途は別にならぬ。さうしてもう一つ具合の悪いことは此人口稠密のものが、他地方に仕事があれば其方に移りさうでありますが却々移らない。東京に居ります者は交趾支那に参らない。これは宗教の關係、氣候、風土の關係でありませうが、労働者が互に行き交ふと云ふことがないのであります。それで印度支那を開発して行くのに、少し大規模にやると勞力が足りないと思ふ懸念があると申して居ります。けれども或は鐵道が出来ればそれが今より一段と融和するやうになりはせぬかと云ふ望みを持つて居る人がありますが、土民が存外に自分の郷里に愛着して居るやうであります。

移民問題 それから印度支那と云ふやうな議論を聞き、又しますと云ふと、日本人中によく移民が出来るかと云ふ問題があります。これは序に申上げて置きますが、私共が觀察しても移民は却々難かしい。又必ずしも利益でないと言ふのは、此邊の百姓を致して居る者は勞銀が大低平均二十スー(日本の二十五錢)それですつかり事足りて居るのでありますから、日本人の勞銀の高い者が行つて、榮養其他に金を使ふ人間が此労働者と競争が出来やう筈がない。昨年印度支那の總督が参りました時分に、同行しました稅務長官のキルシエと云ふ人と、種々話をして居る間に、丁度あの時分アメリカ移民問題が日本で盛んでありまして、一體アメリカ移民問題と云ふのは、どの位の人數の問題でやつて居るのかと云ふ話でありましたから、なにそれは當面の問題になつて居るものは數百人位のものであらうと思ふと言ひましたら、先生大いに笑つて、さう云ふことであるならば、例へばそれが千人であらうが、若し移民と云ふ問題を眞面目に考へるならば、老練を考へたら宜からう。老練は八十萬人位しか居ない。氣候は日本と同じやうな所である。此内で米が出来ると、日本の通りの百姓が出来るから、若し日本人が入るとすれば四百萬人位は入れると思ふ。こゝで一團の部落を作つてやれば樂に暮せまうと言つて居りましたが、さう云ふ問題はどうか云ふ意味で言ふか判りませぬ、我々は移民と云ふ問題に就

ては種々考へがありまして、何も其以上の話はしませんでしたが、之を要するに移民の問題は實行が難かしくあらうと思ひます。澤山の人間が行くと、アメリカ若くはブラジルに起つたやうな問題が起ることも考へなければならぬ。それよりも日本の經濟關係が發展して行き、向ふの經濟關係も伸びて來るのがよいではないかと云ふことが我々の結論であります。

財政、軍備 こゝの財政其他になりますと餘り細かになりますから申上げませぬが、大體政府のやり方は河内の總督府の一般豫算で郵便電信でありますとか警察教育等一般の行政事務に年に五千四百萬ピアスター位の金を費つて居ります。其他各種のローカルプロジェクトが若干ありまして、皆合せまして九千萬ピアスター位と云ふ數字が出て居りましたが、これは見様によりまして向ふの記録にも違つたものがあります。先づ此位の豫算が出来て居るのであります。それにもう少し細かなものを加へますと、一九二四年の豫算では全體で一億三千萬ピアスター位になるのであります。唯私共がこゝを見て感心致しましたのは、之だけの所を一萬四、五千人の兵隊で治めて居るのであります。其内の一萬二千人は主に安南で訓練をした土人兵でありまして、下士官以上の者が二千人ある。それはフランス人でありまして、それで河内に軍司令部があります。私は軍司令官のアンドリュウと云ふ中將の人と心易くなりましたが、此人は當年五十八歳、非常な勉強家で、ヨーロッパの大戦の時巴里の危急を救つた軍功のある人でありまして、今緬甸の境に衛戍地がありまして、そこへ行く時などは飛行機で往來して用を達して、又歸つて事務を執つて居ると云ふやうに至つて手輕に仕事をして居るのであります。

道路 それから道路が四通八達について居りますが、小型のタンク位は非常な速力で飛び歩きます。私共も自動車旅行の時分に一番速かつた速力は九十キロメートル、山縣使節一行の一番速い速力は百十キロメートル、即ち六十六哩、普通は勿論四十哩前後であります。ヘルメットの帽を冠つてアゴ紐で縛り付けてありますのがぱた／＼やると云ふやうな速力

で歩きましたも車は少しも動揺しない。其位の道路を造つて、其上を郵便車が通り人間の自動車を通る。貨物自動車は餘り通つて居りませぬが、一旦緩急のある時は自動車を幾らでも走らせ得るだらうと思ふ。斯う云ふ少い兵隊で守り得るのはさう云ふ相當の施設がある爲と思ひます。附け加へて申しますが、印度支那の第一種國道の規格は基本幅員が十九呎八吋、最小半徑四十九呎二吋、勾配十七分の一、そして四噸乃至十噸のローラーが全國道筋に百臺ありまして、常に修理につとめて居ります。

通信 飛行場は柴棍にも良い所があります、河内のも皆都の直ぐ近くにあります。日本では東京と大阪と飛行郵便をやると、飛行機が立川迄来て郵便は更に東京迄自動車で一時間半掛ると云ふやうなおかしな状態の所はあちらにはありません。これは飛行郵便と云ふ上から言つても、衛戍關係から言つても然るべきことだらうと思ふ。無線電信も非常に強力な設備が備つて居まして、瞬時にして巴里と通信が出来るやうになつて居ります。大體の設備は日本などは少しく構造が違ふやうであります。

誤解の一掃 先づさつとしたことを申し上げますと、今列挙したやうなことでございまして、要するに印度支那は官邊でもすつと以前は相當な計畫を以て調べて居つたこともあるやうであります。それを日本が野心でもあつてしたやうに誤解されて居つたのではないかと思ひます。さう云ふ誤解は此二、三年には一掃されました、日本と云ふものは相當に親しむべく頼るべきものであると云ふ感じが、新聞雜誌の記事或は種々な場所に就ての人の話によつて想像が出来るのでありまして、萬更一時的のことではないかと考へて居るのであります。此印度支那の現状、將來これがどう變るか、我々も豫測の限りでありませぬが、志ある人達の數年來掛つて努力しましたことが、今日幾分其効果を現はして來て居ると云ふことだけをお話し申上げまして、何かの御參考にでもなりましたならば甚だ仕合せであります。

印度支那視察談片

工學博士 岡野昇

國情 佛領印度支那は北は支那、西はビルマ、サイアムと相接し、東及び南に支那海をめぐる北緯八度三十分から二十度二十五分に至る、面積二十九萬平方哩、人口千九百萬人といふ、南北に細長い國である。これを州別にすれば、

州名	面積(平方哩)	人口(人)	一平方哩人口(人)
コーチンチャイナ	二二、〇〇〇	三、八〇〇、〇〇〇	一七三
トンキン	五〇、〇〇〇	六、八五〇、〇〇〇	一四〇
アンナン	六九、五〇〇	四、九三〇、〇〇〇	七一
カンボヂヤ	五八、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	四三
ラオス	八九、〇〇〇	八二〇、〇〇〇	九

であり、千九百萬人の中支那人の三十萬人、其他の外國人(佛國人も含む)二萬五千人を除く残り全部が土人である。即ちアンナン人はコーチンチャイナ、トンキン、アンナンに、カンボヂヤにはカンボヂヤ人、ラオスにはタイス人、而してチャム人がコーチンチャイナとカンボヂヤの一部に住んで居る。

その人口、面積をわが國と比較するに、面積に於てはわが國全部に今一つ臺灣島を加へたほどの大きさであり、人口は

わが四分の一である。従つてその平方哩當り人口はわが北海道の六十一人より五人多い六十六人である。

前述の五つの州の中コーチンチャイナは純然たる佛國の植民地であるが他の四ヶ國は何れも佛國の保護國である。フランスの植民地政府はトンキンの首府ハノイにあり、他の各州の主要地にレシユダン・シュウベリアルといふ知事のやうなものがあるが、各州の國政は依然として國王が執つてゐる。

フランスの勢力が各州に及ばなかつた以前は、或はサイアムと、或は各州互に相争闘を續けてゐたが、アンナンは他の諸國よりも勢力を得、後トンキンとラオスはアンナンの勢力範圍となり、兩國にはアンナンの副王がゐた。其後アンナンはフランスに反抗的な態度に出たので、佛國政府は直ちに之に軍艦を派遣して、遂に全部を保護國とした。而して最近までトンキンとラオスに副王が居たが今日ではトンキンの副王は廢された。従つて今日國王のあるのは、アンナン(首府ユエ)とカンボヂヤ(首府フノンペン)の二州だけで、各國王はフランスから支給される王室費に依つて、昔日よりは幸福に暮してゐる。然しながら私の考へでは、全く去勢されて、何等の向上心も、意氣もないやうである。然し國王は國民に對して今尙尊敬の中心となつてゐる。従つて一州内の裁判其他政治一切は國王が之を司り、國王は租税を徴收して政治費に充ててゐる。だから植民地政府は事二州以上に涉る事件でなければ干渉しないことになつて居る。然しながら國王のゐる處にゐるレシユダン・シュウベリアルは王の相談相手として一切の事を諮られてゐる。國王はレシユダン・シュウベリアルに諮らずに何事をもなし得ぬ實狀である。

その文化程度は最も開化してゐるアンナン人ですらその大多數は竹或は黍を以つて屋根をふき、壁は荒壁又は竹の網代而してすべて土間のみである。ある少數の家は土間の一隅に床を張つてあるところもある。而して彼等はすべて薄い支那服のやうな黄色の衣を着、裸足である。よほどハイカラな者が木履をはいてゐる。従つて彼等には屋内外の區別はなく、

夜など路傍に寝てゐる者もある。これが最も文化の度の高いアンナン人の生活である。故に一ヶ月に三回もあれば人間一人は立派に衣食住が事足りるといふ。タイス人の如きは生蕃のやうな精悍な人種だといふ。

氣候は北部に於ては冬夏の差が甚しく、われわれが行つた時は二月の始めであつたが、厚い外套に襟巻を巻きストロブを焚いて尙寒かつたが、夏は南方サイゴンなどと大差ないといふ。又南部は年中夏の氣候で、冬がない。われわれの行つた時にサイゴンで室内で九十二、三度、外へ出る時は肌衣の上に薄い白服を着てヘルメットを冠り、色眼鏡をかけねば出られない。ヘルメットと色眼鏡をとれば直ちに日射病になるさうである。

地勢はトンキンは大体トンキン平野で平坦であり、北の支那に境する處に險阻な山岳がある。アンナンは海岸であるがラオスと境する西には急峻な山脈が連り、それが南へ伸びてゐる。ラオスは殆んど全部が山地で、東アンナンへは急に、西シャイアム、ビルマへは緩に下つてゐる。而して西は支那から流れ出る最南の大河メーコンに沿ふてゐる。カンボヂヤは北のシャイアムと對する側は山脈があるが、他は一体に廣漠な平野である。コテンチャイナはメーコン河の沈澱物に依つて出來た平野である。

印度支那は全土に涉つて鑛物、森林其他種々な天然資源が非常に豊富だと稱され、事實らしく思はれる。或る人に云はすれば、全土に涉つて地下は殆んど石炭層であると。現に石炭は立派なものが採掘されつゝある。其他鉄鑛、亞鉛、硅石等種々なものがあると想像されるが、フランス政府の調査が未だ充分済んでゐないから判明しない。地上に於ける森林はトンキンの北部、ラオスの全部に立派な大森林がある。

これ等の富源を開發するのに最も必要なものは交通機關である。

道路 道路の状態を見るに、國道に當る植民地政府が築造及び修理をするコロニヤルロードと、國王が租税に依つて築

道保守するローカルロードとがある。兩者の現在總延長一萬六千八百哩あつて、悉く自動車の通行が出来る。

この國道計畫は一九一八年に決定したもので、基本幅員約二十尺、曲線最少半徑五十尺以上、最急勾配十七分の一、而して橋梁は九噸のローリングロードで、全部で十八線ある。この總延長五千五百六十四哩である。

ローカルロードの方はコーチンチャイナにあるフロピンシアルロード、コンミニユナルロードをも通算して延長一萬一千九百三十九哩に及んでゐる。

國道の構造は地盤の悪い個所ではライムストーン或はラテライトといふ石の碎石を、三メートルの厚さに置き、二、三年してその石が沈んだ時に土工をやり、その上に更に三メートルの厚さに碎石を置き十噸位のローラーでならすのである。

ラテライトといふ小石はコーチンチャイナ及びトンキンのデルターに多く産し、値段は距離に依つて異なるが、大体に於て坪に換算すれば六十圓位になり、餘り安くはない。又道路の構造としても決して完全なものとは云へないが、車馬通行の重量に對しては極めて丁寧に出来てゐる。この上を六十五哩の速力で自動車を飛ばせても、東京市内を十五、六哩で走るほどの動搖を感じない。

粗末とは云へ、大体に於て通行重量及び通過量に對してよく出来てゐるといふのは、財政の關係上鐵道の普及が遅いので、道路の他に交通の便がないからであらう。

道路建設に當つて政府が非常に困難したといふ話がある。それは土人が故郷を離れることを非常に嫌ふので、遠隔の地へ連れて行くことが出来ない。従つて現場附近の土人を集めねばならぬが、人口の少ない處では非常に狩集めに困難したといふ。又非常に不健康地である爲め、勞働者中に病人が續出する。この困難は今尙痛感してゐることと思ふ。

道路の修繕といふことは非常に行届いてゐる。一ヶ年分の修繕用の碎石が路傍に配置されてゐて、路面に凸凹の生じた

時には、係員は直ちに傍の碎石を以つて修理して、配屬されてゐるローラーでならすので、大破する前に修理が出来る譯である。

これをわが國と比較するに、わが國では道路が破壊されてから豫算を編成し、これが決定を待つて請負に附し、契約の上材料を蒐集し、機械を運ぶ、而して漸く現場に手を着けるのだから、破壊發見當時と着工の時との間には相當破壊程度に差があるのみならず、一体に破壊率が多い。この點はたとひ後進國とは云へ彼に學ぶべき點ではあるまいか。

鐵道 鐵道は一八九六年時の總督ゾーマー氏が二億フランの鐵道計畫をたて着々として施工せられつゝあつたが歐洲大戰で本國の財政關係で捗々しからず、殊に最近に至つて植民地會計が獨立したので、益々その財政状態は苦しくなり、一方開業線の營業状態が漸次良好に向ふので、これに對して改良費を投下しなければならぬ。従つて今日では新線には手が廻らず、所謂改主建從を極端に行つてゐる。

現在の開業線は左の通りである。

Haiphong—Yunnan	534哩	Hanoi—Nasham	114哩
Hanoi—Vinh	202	Taurane—Hue—Kwang-Tri	109
Saigon—Nhotrang	290	Saigon—Myrto	43

合計一千二百九十二哩であるが、この中雲南線は五百三十四哩の中二百八十九哩が支那領にあるから、印度支那領内は二百四十五哩となり、佛領印度支那國內の合計は一千三哩となる。

この雲南線の中ハイホンから國境のラオカイに至る鐵道は植民地政府の布設にかゝり、一八九八年日清戰役の結果各國が競つて支那に利權を漁つた時、フランスはラオカイからウンナンに至る鐵道の布設權を得たのである。而してこの新線

布設に際して、フランス政府は印度支那國內即ち國境からハイフロンに至る二百四十五哩の鐵道の現物出資をするから支那國內即ちラカイから雲南府に至る鐵道の資金を支那政府の手で集めることとし、こゝに佛支合同の會社が成立したのである。

三六

前記六線の中、この雲南線を除く五線は全部植民地政府の國有鐵道である。

この他ビインからカントリーに至る連絡線は土工が竣成し、橋梁に橋桁を架け、軌條を布設すれば開通するのであるが中止してゐる。いづれ金策の出來次第着手することであらう。この線と相俟つて東海岸を縦斷するツトラヌからナトランに至る連絡線は未着手であるが、アンナンの南部の山脈が施工困難なので、比較線が現れてゐるが、これは未だ何れとも判明しない。

又サイゴンからフノンベンを経てカンボヂヤを東西に横斷してサイアムの國境に至る線路も計畫はあるが、これはサイアムの方でペトミューから國境まで連絡をしなければ餘り効果がない。この線を兩國から國境で連絡すればサイゴンからシンガポールまで陸上連絡の途が拓ける譯であるが、對シヤイアム關係に何等か事情があるやうで、今のところでは見當がついてゐない。

一方アンナンの東海岸ビインからラフスのメコン河の沿岸タナクに至る豫定線もある。非常な大森林と鑛物があるラフスから、それ等の物資をビインの港へ運ぶ爲めの最捷路である。然し私の考へでは、この豫定線は成程最捷路ではあるが二州の國境に急峻な山脈がある。従つて急勾配になる。ラフスの物資をアンナンへ送る時は下り勾配になるが、反對にラフスへ物資を入れる場合には急峻な上り勾配になつて不得策である。寧ろラフスの背面を流れてゐるメコン河を利用して物資を今少し下流まで流し、現在の豫定線よりも南寄りに布設してツトラヌに出す様にすれば、平面では豫定線よりも長

く見えるが、豫定線では山脈突破の時、左右に曲折を重ねる必要があるから、結局線路延長に於ては大差ないことになるのみならず、港がビインに比し遙にツトラヌの方がよいのであるから、メコン河の利用と相俟つて明かに得策と思ふ。この事を當局者に説いた時、彼は感謝してゐた。

雲南線はトンキン州内では平野であるが、支那領へ入れば雲南高原に登る間殆んど山地で、曲線、勾配ともに急である短日月の間に安上りに布設した爲め、線路としては非常に悪い。雨期などは山崩れ、出水等に依つて毎年大破壊を免れぬ従つて充分な輸送力も出ないことになる。恰もビインからラフスに至る豫定線の開業後もこれと同様の運命に立至りはないかと憂慮される。

以上がヅーマー氏の二億フラン計畫の全部である。

鐵道線路の構造はラテライトの碎石をバラストに用ゐ、枕木は鐵枕木、レールはバーヤード四十ポンドでゲージは一メートルである機關車は三十噸であるが、雲南鐵道の局部では四十噸機關車が動いてゐる。速度は十六哩、列車重量は旅客列車は二百噸、貨物列車三百噸で、列車回数は三回乃至五回である。即ち列車重量や速度に對しては、道路の場合と同様線路が勝つてゐる。私たちの旅行は鐵道線路に沿つて走つてゐる道路を自動車で行つたので此處から鐵道を注意して見たが一個所として、工夫が線路を修理してゐるのを見なかつた。歐米旅行の際にもこれと同様な感じを抱いたが、日本ほど工夫が線路に働いてゐる所を見た事がない。即ち日本は最初拙速主義で建設したもので、漸次輸送量が増加し、列車重量や速度に對して線路が甚しく劣つてゐることになる。従つて非常に巨額な修繕費を要するのは當然のことである。この點亦われ等は彼に大いに學ぶべきではあるまいか。

港灣 港灣として政府の管理下にあるものはハイホン、ビイン、ツトラヌ、クイン、サイゴンの五港がある。五港とも東

海岸にあつて非常に良港である。何れも大河を溯つて河中にある。所謂河港である。従つて築港工事費といふものは、場所依り浚渫を要するものもあるが、大部分は護岸工事と倉庫築造のみで事足りるのである。

今回の旅行で非常に強く感じたことは、上海といひ、香港といひ、又これ等五港何れを見ても、日本の港の如く防波堤がない。わが國に於ては築港工事は第一に防波堤を築造して、然る後港が出来るのであるが、その防波堤たるや、相當將來を考慮して、かなり廣く港をとり防波堤を築造せねばならぬ。従つて豫定の繁盛に達しない間は不經濟な港である。然るに支那並に佛領印度支那は、港の繁盛に従つて護岸の伸長と倉庫の増築を行へばいゝのだから、無駄がない。所謂天恵の地の利に恵れてゐるのである。かうした有利な状態にある彼等とわが國は商業上の競争をするのだから、日本はかなりのハンディキャップをうけてゐる譯である。それだけ國民は奮發せねばならぬ。

殊にメーコン河の如きは佛領印度支那にとつては非常な寶である。サイゴンの如きは海から約四十哩を遡つて河中にあるにかゝらず、浚渫することなくして一萬六千噸の船舶が自由に航行し、方向轉換して出て行けるのである。サイゴンの上流ラノンペンまでは三千噸の船舶が出入出来る。更に今少し小さい船舶ならばララスとシヤイアムの國境近くまで遡航が出来るのである。

メーコンの持つ一つの天恵は、毎年大洪水があつて、カンボチャ一体がこれに浸る。而してグランドラックといふ水溜りがカンボチャの中部にあつて、この洪水を調節するから、洪水は永く續かぬ。この例年の洪水が非常な肥料を持つて來るので、同地では施肥することなくして、年に二回乃至三回の米作が行はれるのである。

結 かくの如く非常に恵れた國であつて、而も開發の餘地はしやく／＼たるものがある。地下一体が石炭層と稱されてゐるが、現にトンキンのホンゲイ炭坑は巾六十七メートルで百四十メートルの炭層で無限長であるといふ。すべて露天掘

である。而して更に羨むべきはホンゲイが海岸であることである。目下盛んに築港工事中であつたが、採掘したものは直ちに港に出ることになる。

しかしホンゲイ炭は餘りに純粹炭で火氣に乏しいので、現に三池炭を持つて行つて混合して煉炭として市場へ出してゐる。その年産額は煉炭八千噸、石炭百萬噸と稱する。

この外セメント工場、精米工場等も相當大きなものを見たが、アンナンの海岸の砂は桂石に富んでゐるので、特別な壽でこれを採用してフランス本國へ運んでゐる。

一方勞銀は如何にといふに、前記ホンゲイ炭坑には六千人のアンナン人と、六千人の支那人が働いてゐるが、前者は日給四十錢で、熟練工は八十錢まで昇給する。後者の日給は一圓であるが、支那人を使用する方が能率がよく、結局經濟的だといふ。斯くの如く勞銀が廉むから他から勞働者に入ることは不可能である。

然るにフランス人は植民地行きを好まず、如何に好遇しても希望者が少ない。故にフランス人も合計して支那人外の外國人は二萬五千人である。如何なる大工場と雖もフランス人は要部に僅か居るだけで皆土人である。故に植民地政府は土人教育に力を致し、十戸二十戸と戸數が纏れば寺小屋式の學校を設けてアンナン人の教師をして専ら教導せしめてゐる。又ハノイには七年制の専門學校程度のものであつて、國王の王子なども入學してゐる。在學中の日本人も一人ゐた。

天然富源かくの如く、文化の程度亦かくの如き状態にあつて、而もフランス之を充分に開發することが出来ない。從來この國に於けるわが日本の地位は極めて疎遠であつたが、メルラン總督の來朝、今回の答禮に依つて、今後の兩國關係は非常に親密の度を加へることと思ふ。故に徒らに目前の利に走らぬわが資本家の着目を促したいと思ふ次第である。

覽要部版出會政工

番四二七七二京東替振八二三二五半電話一町手大區町麹市京東

告報所驗試業工京東

Table listing industrial test reports from the University of Tokyo. Includes titles like '魚油に関する研究' (Research on Fish Oil), '臺灣苗栗產原油に就て' (On the Production of Crude Oil from Taiwan), and '澱粉糊に関する研究' (Research on Starch Paste). Each entry includes author names, a brief description of the study, and pricing information.

覽要部版出會政工

番四二七七二京東替振八二三二五半電話一町手大區町麹市京東

トツレフンハ政工

Table listing various reports and publications from the Industrial Association. Includes titles like '東京工業試験所報告' (Reports from the Tokyo Industrial Testing Laboratory), '燃料研究所報告' (Reports from the Fuel Research Institute), and '電気試験所報告' (Reports from the Electrical Testing Laboratory). Each entry includes author names, a brief description, and pricing information.

524
330

工政會出版部要覽

東京市麹町區大手一丁目 電話 五二二八 振替東京二七二七番

東京工業試驗所	
藤田正一著 染料堅牢度比較試驗成績	染法(綿布染法、絹布染法、毛布染法)、染料堅牢度比較試驗方法、綿布之部、絹布之部) 試驗成績
平野茂著 防火塗料の製法に就て	緒言、文獻、實驗の部、結論
藤田秀松著 菱苦土礦を原料とする金屬的製造に就て	(一)緒言、原料、電解用無水鹽化混合物の製造、電解裝置、析離金屬の捕集、分解電壓、弗化カルシウムの量、電解温度と電流能率、電流密度と電流能率、電流量と收得率、不純物の影響、實驗結果等
山村銳吉著 硫酸中に存する微量セレンの定量に就て	(一)この報告により要素によつて容易に多量の硫酸を酸化する方法を定め、硫酸中の微量セレンの定量をなす。
理學士 結城五二著 英國ヂヨンソンマツセーの製法に就て	(二)硫酸銅の中性溶液の電解、アルカリの標準液の調製、結論等
白金ロヂウム熱電對の動力と温度との關係及び冷接點の補正に就て	緒言、標準熱電對の定準、ヂヨンソンマツセー熱電對の動力と温度との關係、ヂヨンソンマツセー熱電對の冷接點の補正等
送金菊 料 版 四 四 十 〇 錢 頁	送金菊 料 版 五 四 拾 六 錢 頁
送金菊 料 版 四 四 十 〇 錢 頁	送金菊 料 版 七 九 十 二 錢 頁
送金菊 料 版 四 四 十 〇 錢 頁	送金菊 料 版 六 七 十 二 錢 頁

大正十四年七月十五日印刷
大正十四年七月十七日發行

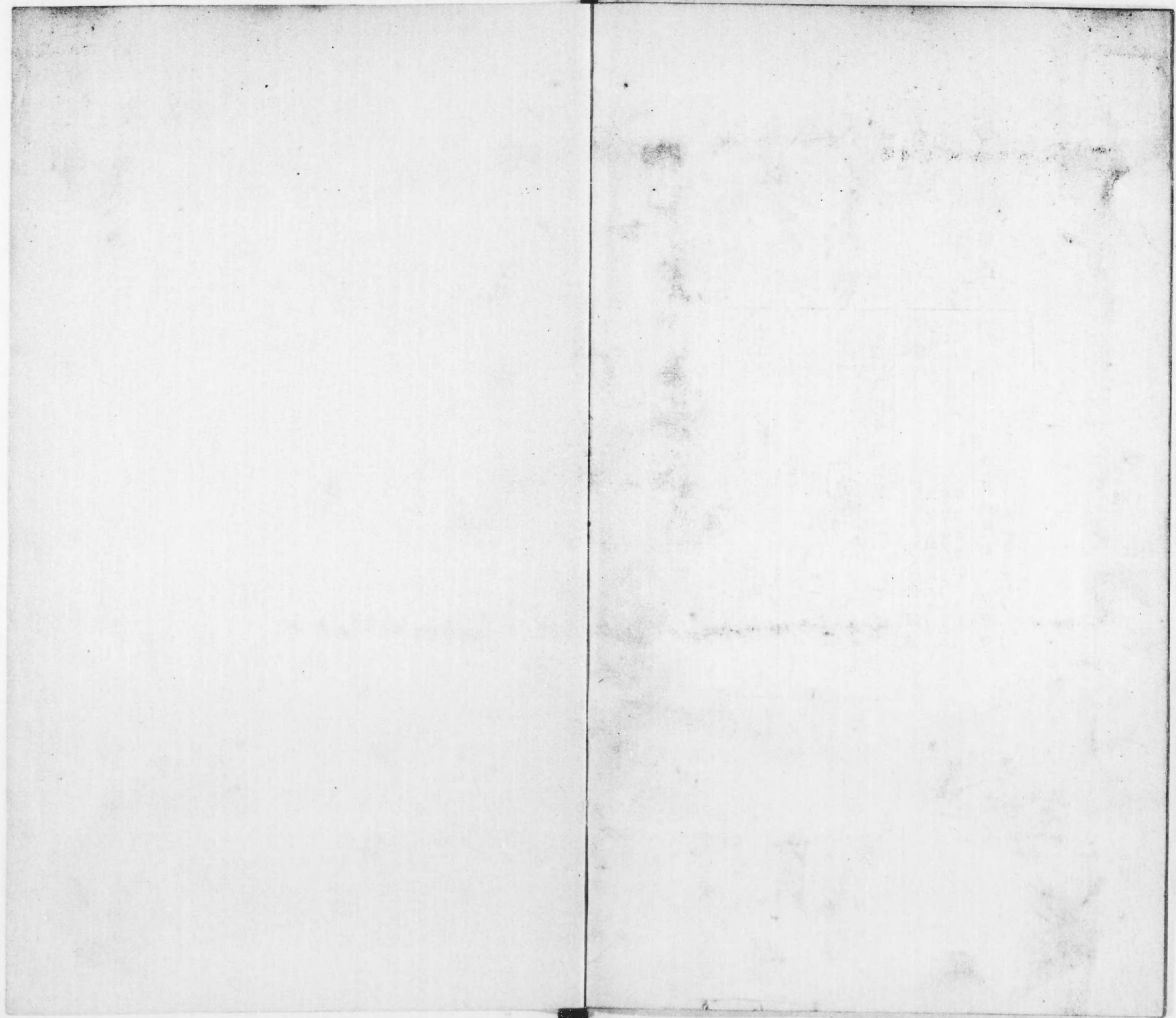
佛領印度支那事情 (定價金卅五錢)

編輯兼發行人 水谷三郎
東京市麹町區大手町一、工政會
印刷人 川城時造
東京市芝區愛宕町二ノ一二

發行所 工政會出版部
東京市麹町區大手町一
電話中込五二二八、五二二三
振替東京二七二七番

印刷所 愛生舎印刷所
東京市芝區愛宕町二ノ一二

(禁轉載)



324

330

終

